



第37期通期 決算補足資料（詳細版）

テクマトリックス株式会社

- 1. 通期 業績報告**
- 2. 最近の活動概況一覧**
- 3. 2022年3月期業績予想**
- 4. 中期経営計画振り返り「GO BEYOND 3.0」**
- 5. 新中期経営計画「BEYOND THE NEW NORMAL」**

1. 通期 業績報告

- ◆ 2021年3月期1Qより、企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」を早期適用（以下、「**新収益認識基準**」）しております。**2021年3月期の業績につきましては、新収益認識基準に基づいて作成しております。**
- ◆ 2021年3月期の有価証券報告書より国際財務報告基準（IFRS）を任意適用いたします。そのため、本資料に記載される**2022年3月期の業績予想につきましては、国際財務報告基準（IFRS）にて作成しております。**

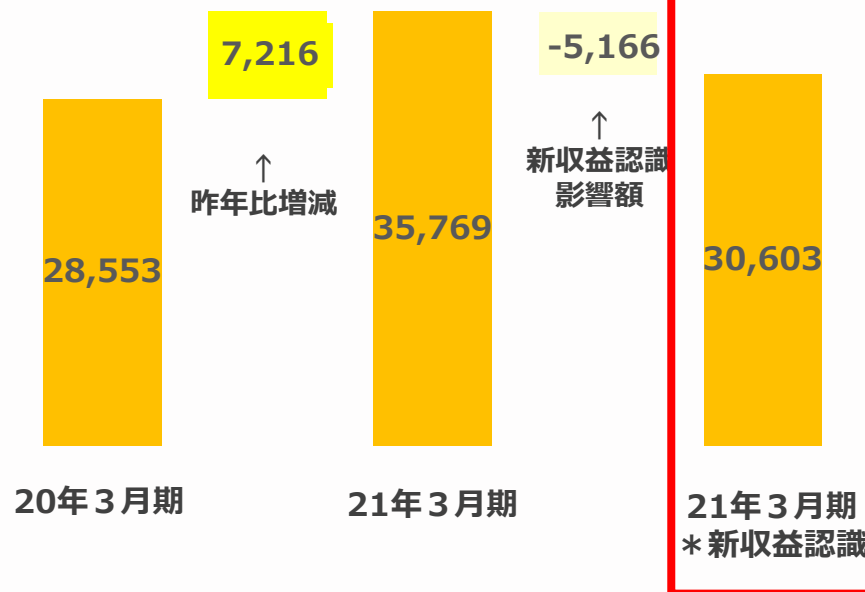
◆ 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも**過去最高**を記録。

	2020年3月期 * 日本基準	2021年3月期 * 新収益認識後	増減額	増減率
売上高	285億53百万	306億3百万	+20億49百万	+7.2%
営業利益	30億28百万	36億86百万	+6億57百万	+21.7%
経常利益	30億18百万	36億55百万	+6億36百万	+21.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	18億63百万	23億40百万	+4億77百万	+25.6%

連結売上高・営業利益

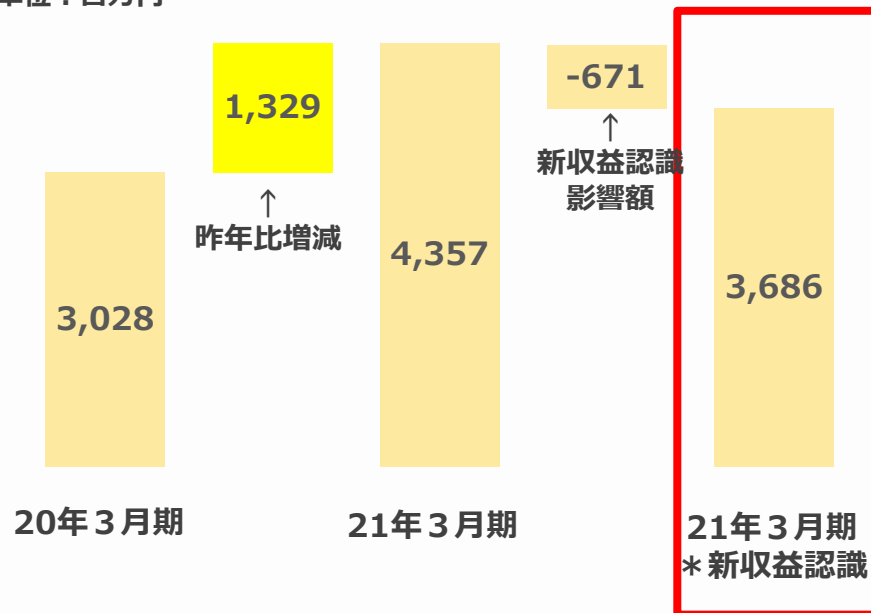
売上高

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



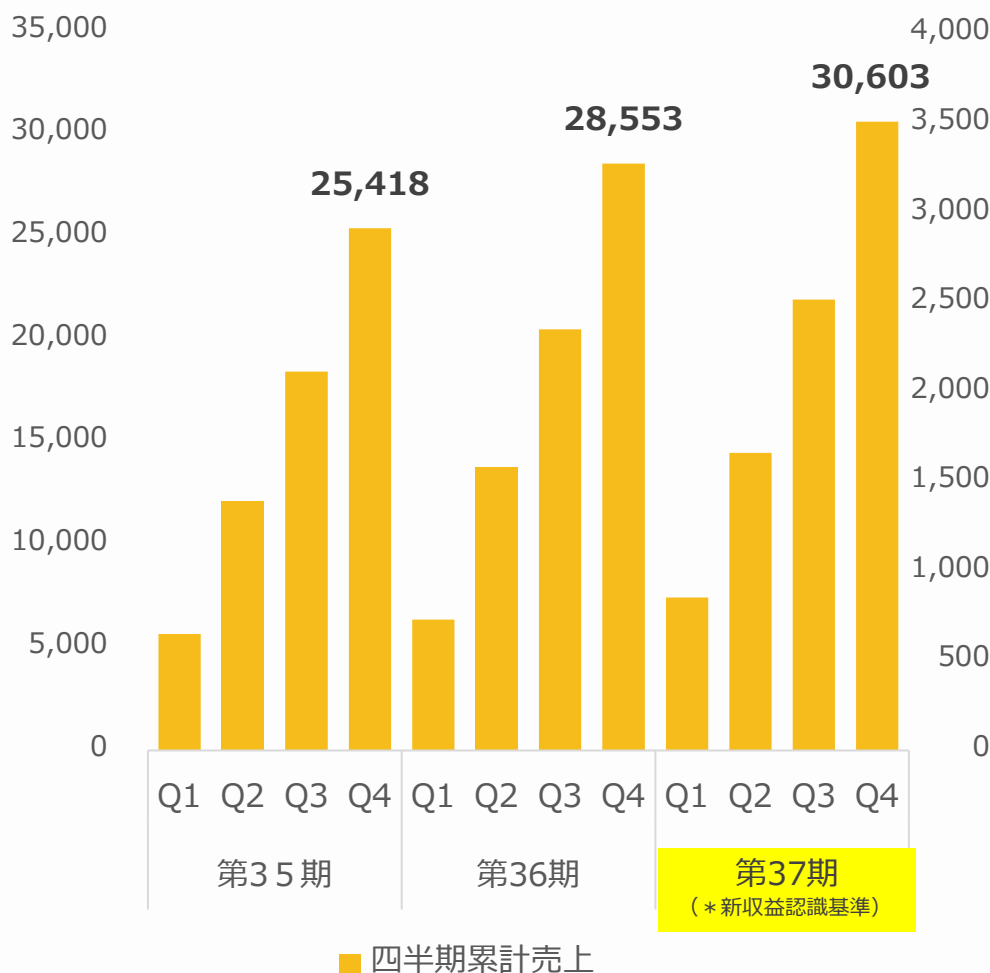
	2020年3月期 * 日本基準	2021年3月期 上段：日本基準 下段：新収益認識	増減額 上段：日本基準比 下段：新収益認識比	増減率 上段：日本基準比 下段：新収益認識比
売上高	285億53百万	357億69百万 306億03百万	+72億16百万 +20億49百万	+25.3% +7.2%
営業利益	30億28百万	43億57百万 36億86百万	+13億29百万 +6億57百万	+43.9% +21.7%

◆ 新収益認識基準の適用により、保守込みの製品販売やサブスクリプション等の期間限定ライセンスの収益認識のタイミングを厳格化し、履行義務が充足される期間に対応した収益認識を行います。

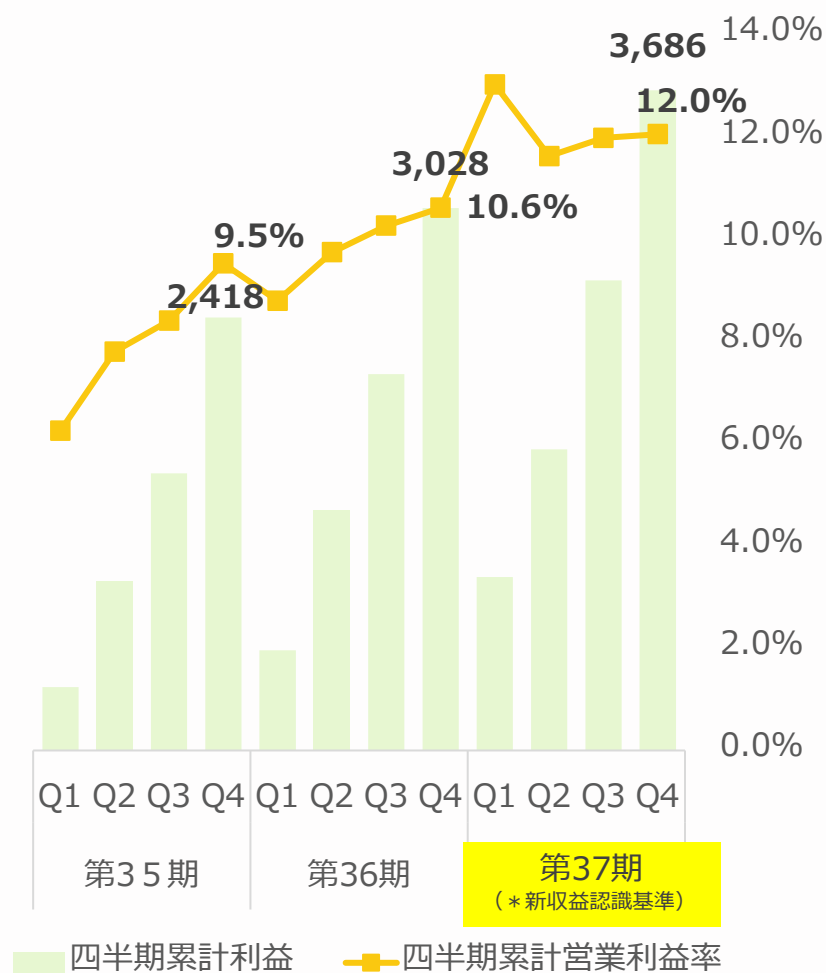
連結業績（四半期累計推移）

◆ 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも**過去最高**を記録。

四半期累計売上高



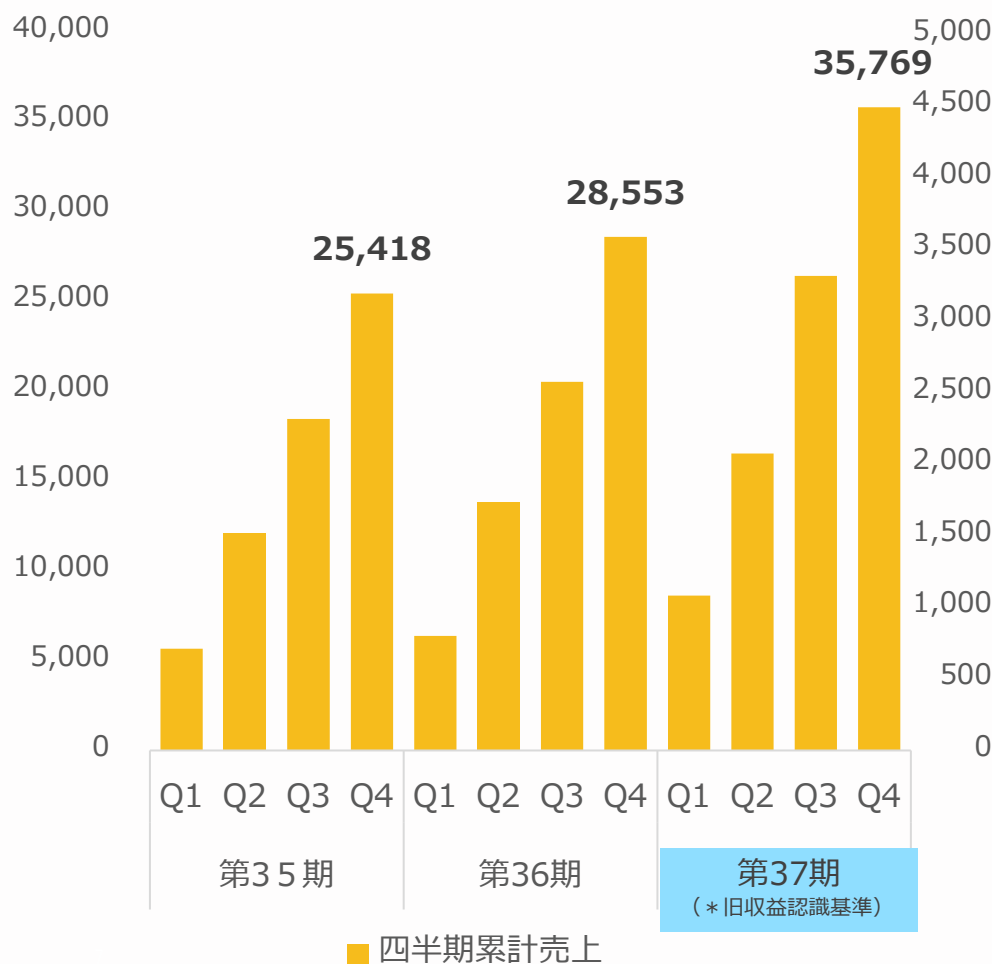
四半期累計営業利益



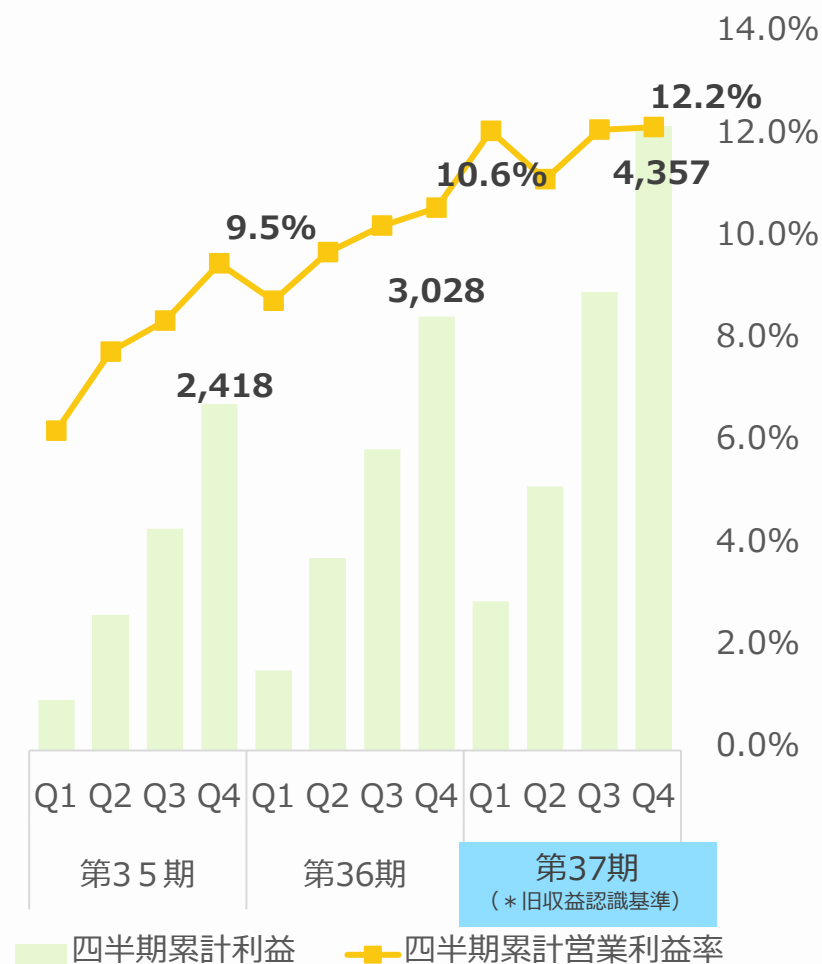
連結業績（四半期累計推移） ＊従来の会計基準比較

◆ 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも**過去最高**を記録。

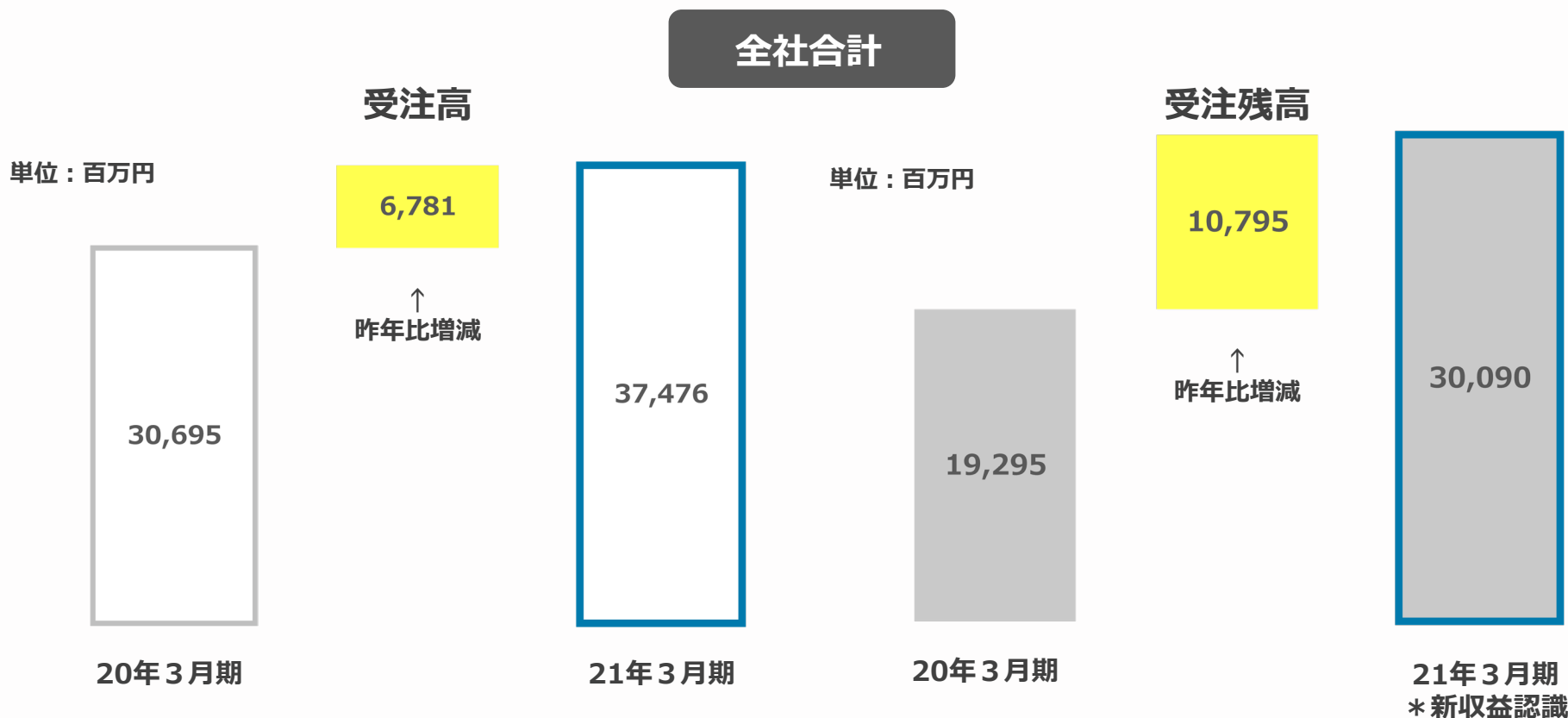
四半期累計売上高



四半期累計営業利益



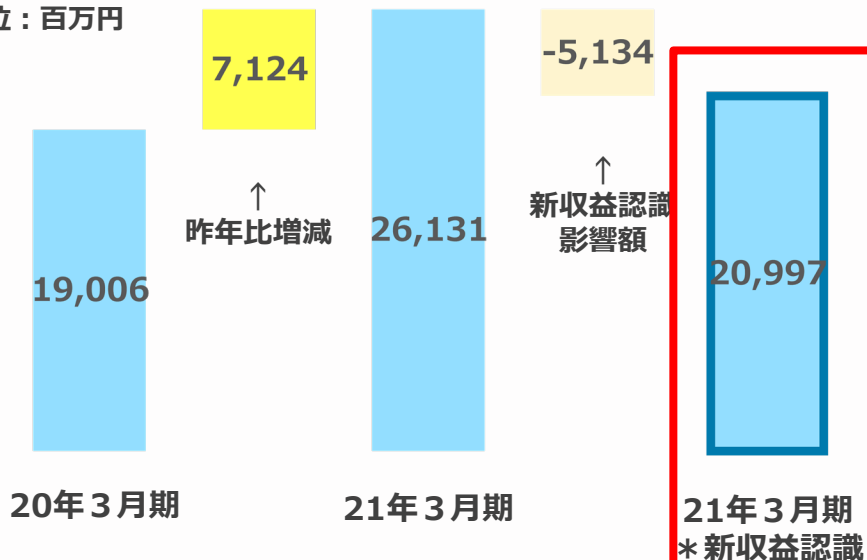
- ◆ 受注高は、対前年同期比で情報基盤事業を中心に増加。
- ◆ 新収益認識基準適用により、保守一体の製品販売及びサブスクリプションの充足されていない履行義務は、収益として認識しないため受注残となる。＊収益認識基準の変更に伴う収益の影響額は、当期首の利益剰余金を加減し、当期に充足される履行義務は当期で収益認識。



連結セグメント別 売上高

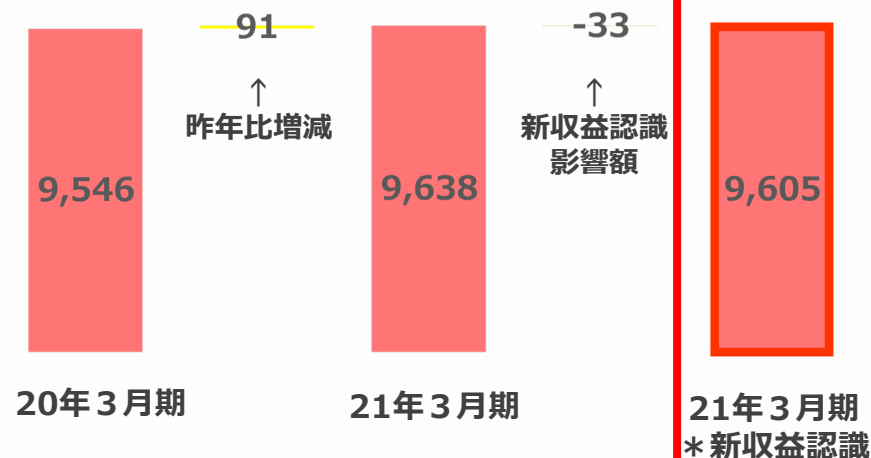
情報基盤事業

単位：百万円



アプリケーション・サービス

単位：百万円



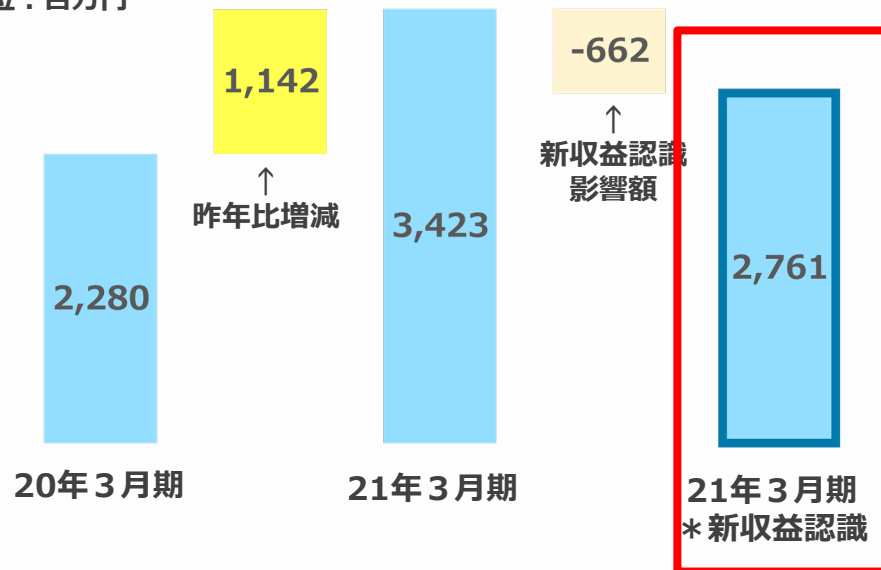
	2020年3月期 * 日本基準	2021年3月期 上段：日本基準 下段：新収益認識	増減額 上段：日本基準比 下段：新収益認識比	増減率 上段：日本基準比 下段：新収益認識比
情報基盤事業	190億06百万	261億31百万 209億97百万	+71億24百万 +19億91百万	+37.5% +10.5%
アプリケーション・サービス事業	95億46百万	96億38百万 96億05百万	+91百万 +58百万	+1.0% +0.6%

- ◆ 情報基盤事業： 売上高は過去最高を記録。クラウド型のセキュリティ製品の引合いが増加。SASE関連で大型案件を受注。リモートアクセス関連製品は、20年3月期Q4からの好調なトレンドが続く。
- ◆ アプリケーション・サービス事業： 売上高は過去最高を記録。医療分野が好調。CRM分野は堅調に推移。ソフトウェア品質保証分野は対面市場の投資抑制の影響を受ける。

連結セグメント別 営業利益

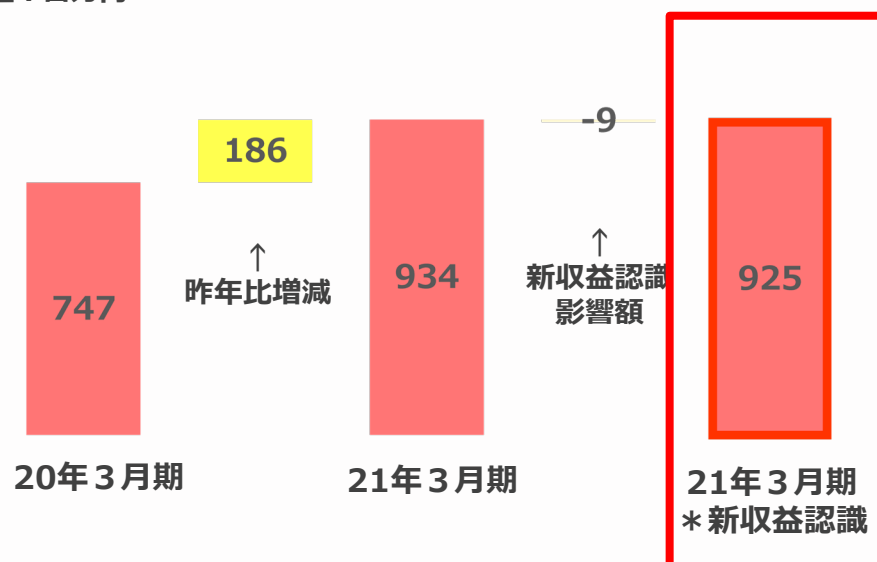
情報基盤事業

単位：百万円



アプリケーション・サービス

単位：百万円



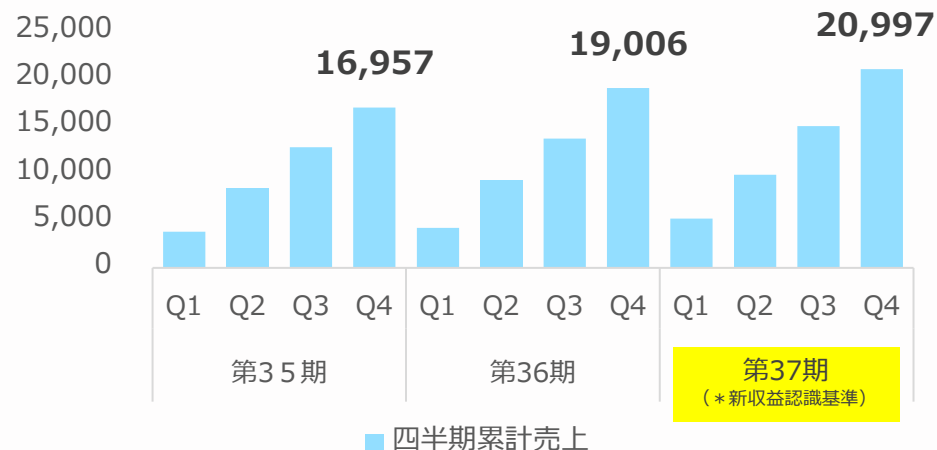
	2020年3月期 * 日本基準	2021年3月期 上段：日本基準 下段：新収益認識	増減額 上段：日本基準比 下段：新収益認識比	増減率 上段：日本基準比 下段：新収益認識比
情報基盤事業	22億80百万	34億23百万 27億61百万	+11億42百万 +4億80百万	+50.1% +21.1%
アプリケーション・サービス事業	7億47百万	9億34百万 9億25百万	+1億86百万 +1億77百万	+25.0% +23.8%

◆ 情報基盤事業、アプリケーション・サービス事業ともに増益。いずれも、営業利益は過去最高を記録。

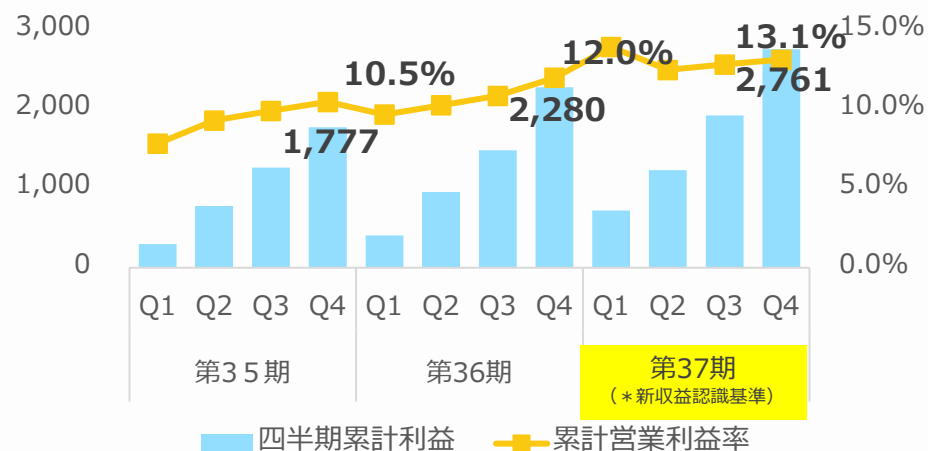
連結業績（四半期累計推移）

情報基盤事業

四半期累計売上

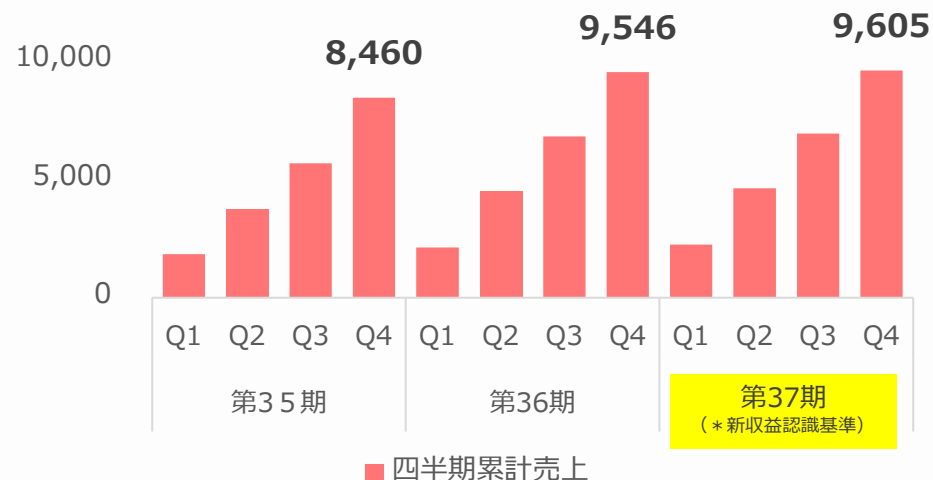


四半期累計営業利益

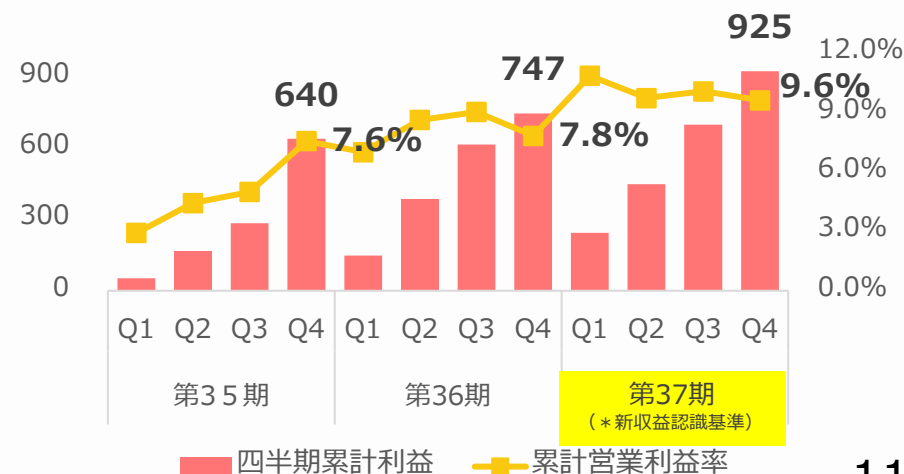


アプリケーション・サービス事業

四半期累計売上



四半期累計営業利益

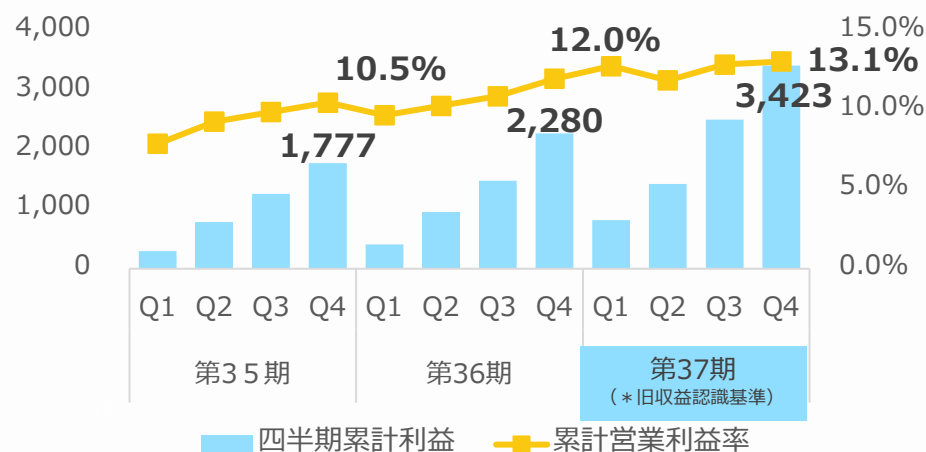


情報基盤事業

四半期累計売上

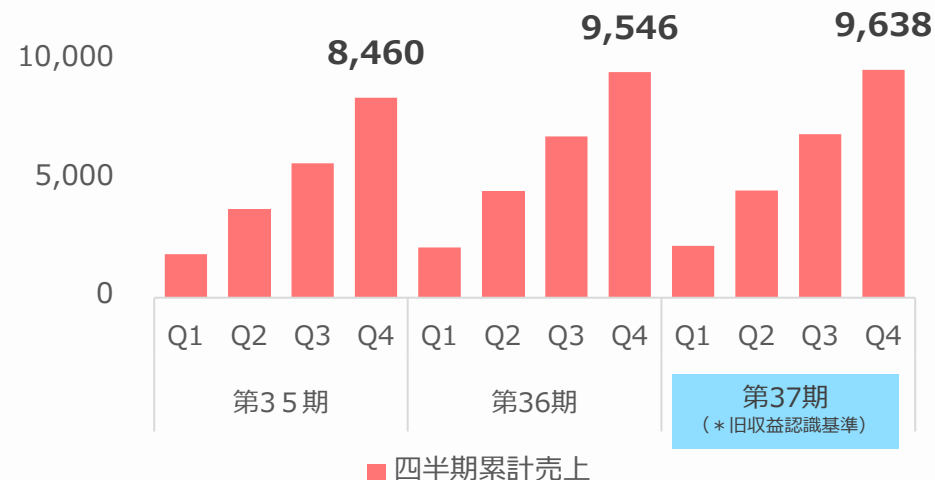


四半期累計営業利益

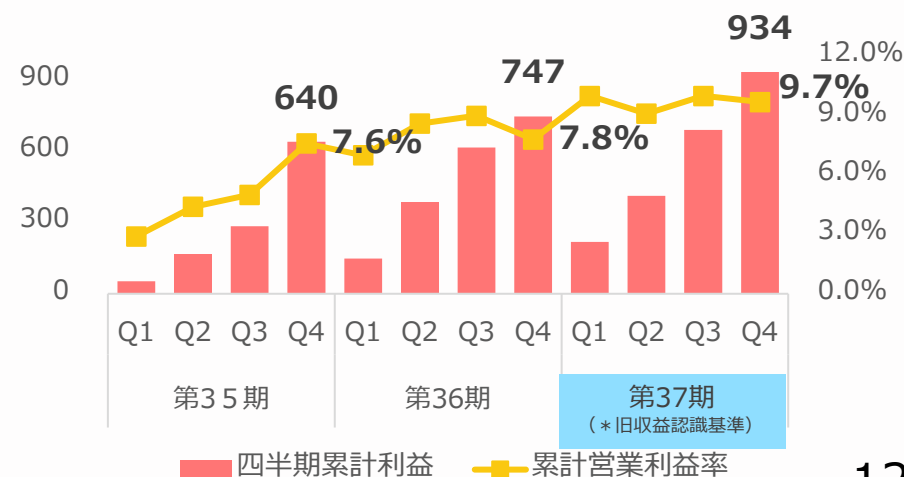


アプリケーション・サービス事業

四半期累計売上

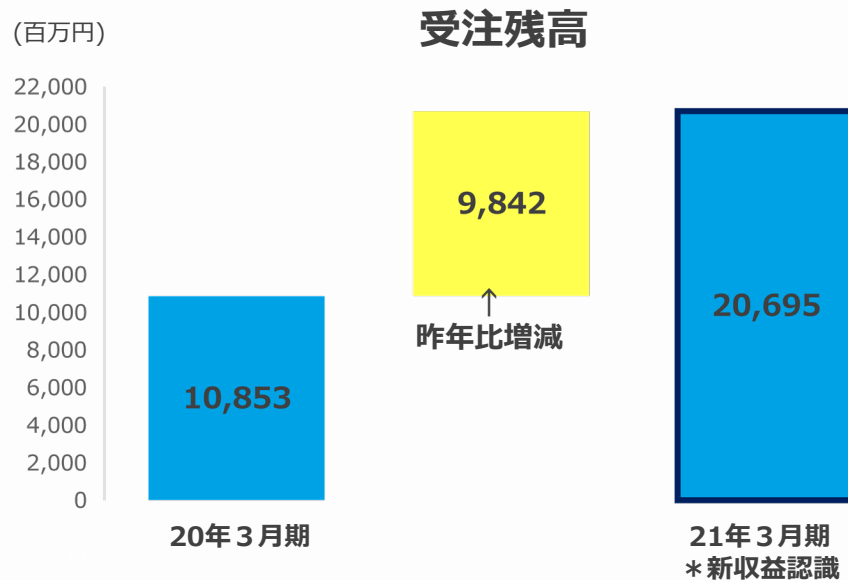
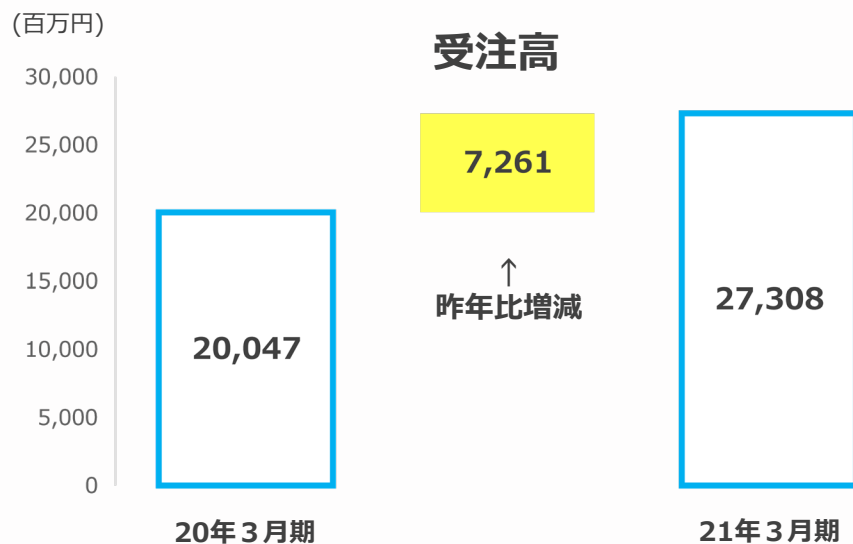


四半期累計営業利益

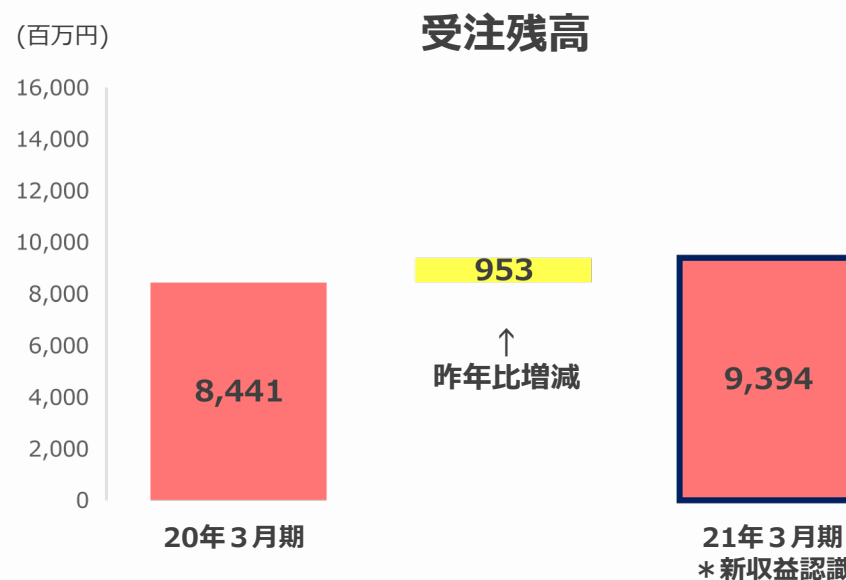
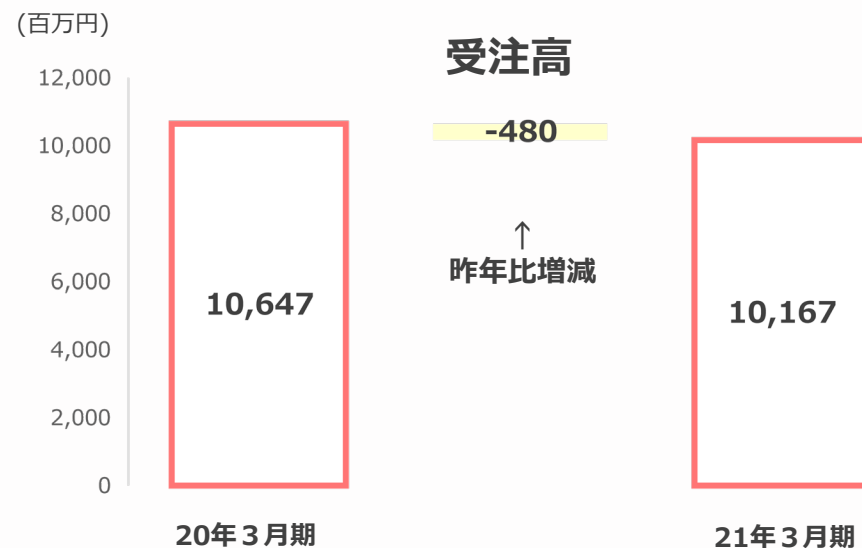


受注高と受注残高

情報基盤事業



アプリケーション・サービス事業



◆情報基盤事業（売上高）	対前年同期比 （旧収益基準）	対前年同期比 （新収益基準）
負荷分散装置等（BIG-IP, EDGE）		
次世代ファイアウォール(PaloAlto, Traps)		
アンチウィルス/不正侵入防御/セキュリティイベント管理/Webセキュリティ		
個人認証システム/フォレンジック製品/ストレージ製品		
セキュリティ運用・監視サービス		
その他セキュリティ製品		
クロスヘッド・沖縄クロス・ヘッド		
◆アプリケーション・サービス事業（売上高）	対前年同期比 （旧収益基準）	対前年同期比 （新収益基準）
ビジネスソリューション分野（カサレアル含む）		
ソフトウェア品質保証分野		
医療分野（NOBORI、医知悟含む）		
CRM分野		



+10%以上



+10%未満



±5%未満



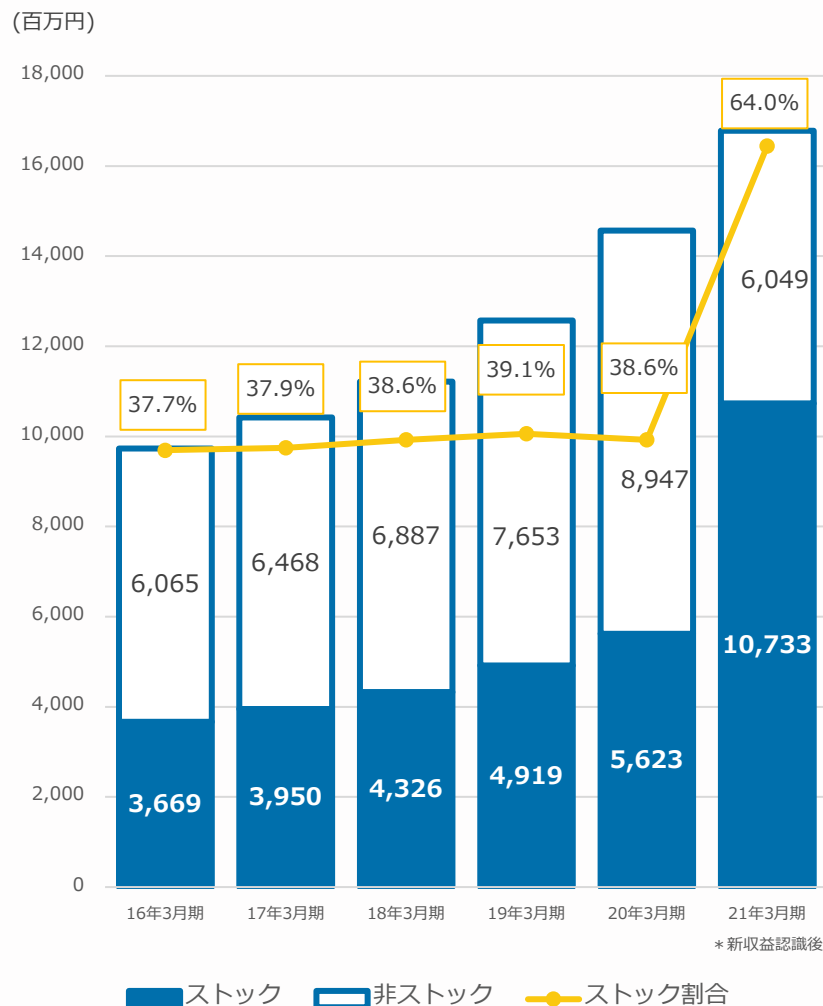
△10%未満



△10%以上

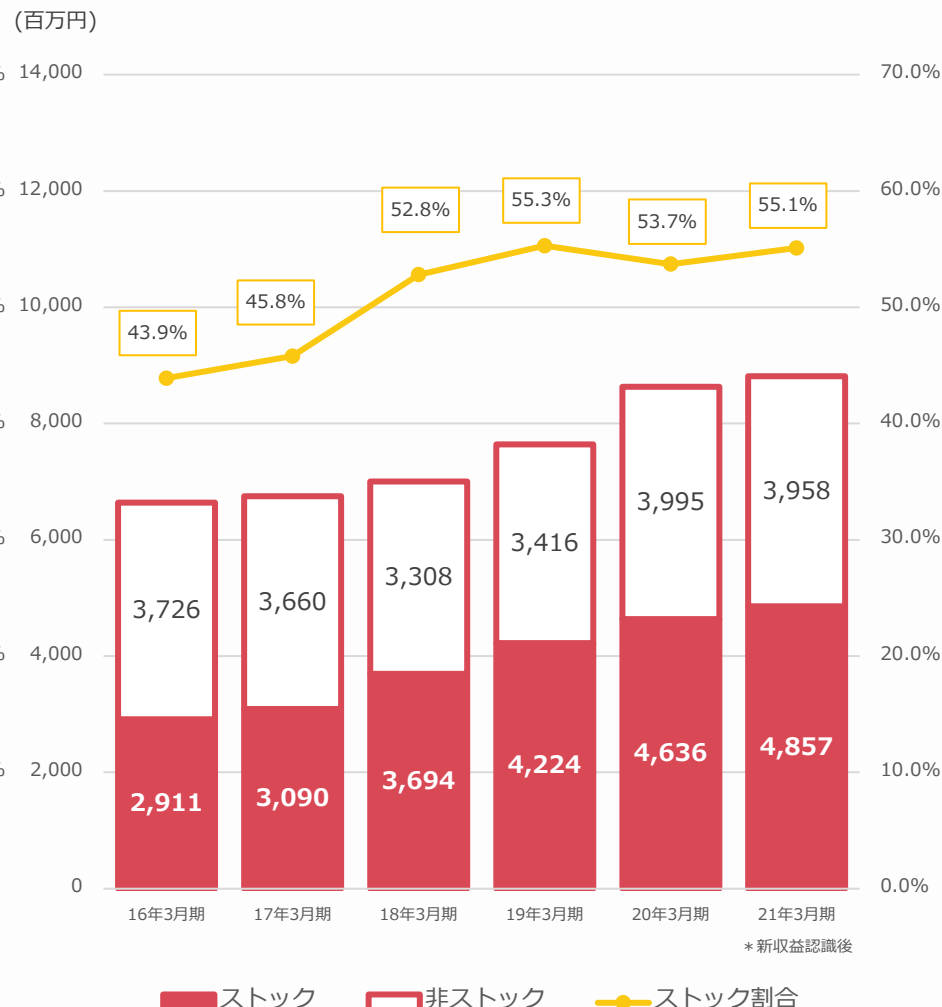
ストック比率の進捗状況（単体+株式会社NOBORI）

情報基盤事業



*新収益認識基準適用により、これまでフローとして計上していた売上（保守一体の製品販売や一部のサブスクリプション型）を厳格にストック計上。これにより、情報基盤事業のストック比率が向上。

アプリケーション・サービス事業



*新収益認識基準適用により、これまでフローとして計上していた売上（主にテスツツールの売上）を厳格にストック計上。従前からのクラウドビジネスの積み上げも奏功し、アプリケーション・サービス事業は、ストック比率が向上。

連結貸借対照表 (B/S)

- ◆ 新収益認識基準の適用に伴い、「その他流動資産」に含まれる「前渡金」及び「その他流動負債」に含まれる「前受金」が増加しております。

(単位：百万円)

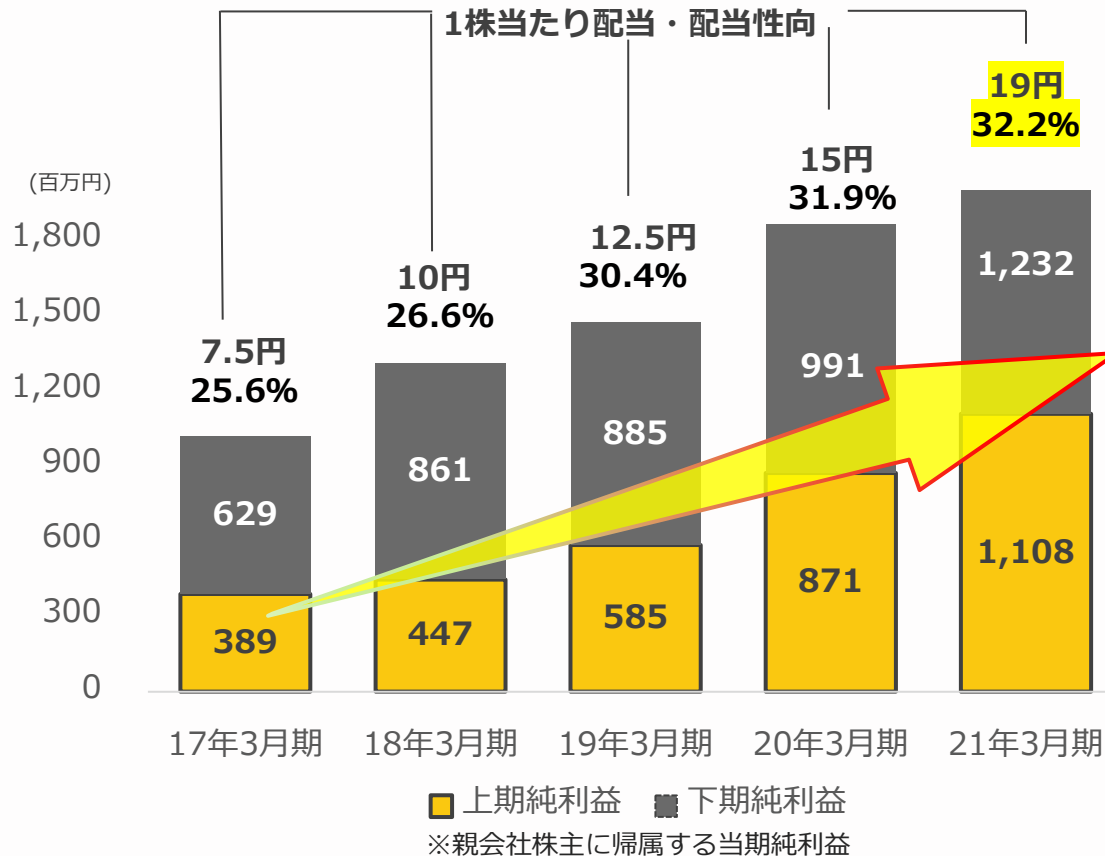
	20年3月期	21年3月期		20年3月期	21年3月期
流動資産合計	24,367	30,727	流動負債	11,908	17,839
現金・預金	13,396	14,229	買掛金	1,450	929
受取手形・売掛金	5,683	3,809	短期借入金	450	450
その他流動資産	5,287	12,688	1年内返済予定の 長期借入金	250	200
			その他流動負債	9,758	16,260
固定資産	5,256	5,879	固定負債合計	2,709	2,450
有形固定資産	1,318	1,467	長期借入金	900	700
のれん	-	-	その他固定負債	1,809	1,750
無形固定資産	1,373	1,409	負債合計	14,618	20,290
投資その他の資産	2,565	3,002	株主資本	13,651	14,640
			その他の包括利益累計額合計	6	181
			新株予約権	77	98
			非支配株主持分	1,269	1,396
			純資産合計	15,005	16,316
資産合計	29,623	36,607	負債純資産合計	29,623	36,607

* 自己資本比率 20年3月期：46.1% 21年3月期：40.5%

配当金について

- ◆ 前期から引き続き中間配当を実施。
- ◆ 期末配当は12円とし、1株当たりの年間配当額は19円（前期実績から実質4円増配（前期基準では8円増配））。

当期純利益の推移



21年3月期配当

	中間配当	期末配当
年初予想	未定	未定
中間修正予想	7.0	未定
実額	7.0	12.0

* 期末配当は、6/10に支払予定

<配当方針>

- 内部留保充実とのバランスを考慮
- 期末業績における配当性向20%以上

※2017年3月及び2020年7月において1:2の割合で株式分割を実施したため、過年度の配当額の表示については株式分割が行われたと仮定して表示しております。

2. 最近の活動概況一覧

日付	内容
5月	株式会社NOBORI、エムスリー株式会社と業務提携
	株式会社NOBORI、PHRサービスを提供開始
	クロス・ヘッド、自社サービス「CROSSLINK」シリーズに新機能-cybozu.comとOffice365のユーザー情報を同期-
	株式会社NOBORI、インドDeepTek社へ出資、資本・業務提携
	クロス・ヘッド、24 x 7 ITサービスセンターを97%リモートワーク化
	クロス・ヘッド、「お手軽！リモートワーク接続パック」の提供を開始
	株式会社NOBORI、COVID-19遠隔読影と画像診断支援AIシステムを全国の医療機関100施設に期間限定で無償提供
	テクマトリックス、学校法人軽井沢風越学園向けに学びの個別化を実現するコミュニケーション・プラットフォーム「typhoon」（タイフーン）を新規開発～導入
	LIBOR廃止を見据えた金融商品評価・分析ツール「F3」最新版の国内販売を開始

日付	内容
6月	株式分割及び定款の一部変更並びに株主優待制度に関するお知らせ
	株式会社NOBORI、エルピクセル株式会社との業務提携に合意 エムスリー株式会社と共同で運営する医用画像診断支援AIプラットフォームにてエルピクセル社EIRL aneurysmサービスの提供を開始
	AI技術によるセルフヒーリング機能やレコメンド機能でSeleniumのテストを強化する「Parasoft Selenic」の販売を開始
	クロス・ヘッド、テレワーク時代の情報漏洩対策と生産性向上をワンストップサービスで実現する「CROSS HEAD Advanced Security Service」の提供を開始
	クロス・ヘッド、情報漏洩対策と生産性向上を実現するBitLocker管理ソリューション「BitManaクラウドサービス」の提供を開始
	株式会社NOBORI、AI医療技術「COVID-19肺炎画像解析プログラム Ali-M3」の販売開始
	強力なオブジェクト認識能力を誇るUIテスト自動化ツール「Ranorex日本語版」に最新版のVersion 9.3が登場

日付	内容
7月	F3 CVA試算計測サービスを強化 各取引のCVAへの影響度確認に有効な「マージナルCVA計測機能」を追加
	株式会社NOBORI、TXP Medical株式会社と業務提携
	アーキテクチャ分析ツール「Lattix 日本語版」 Version 11の販売を開始
	沖縄クロス・ヘッド、株式会社ロゼッタと販売代理店契約を締結・業務提携
	クロス・ヘッド、ファイル暗号化ソリューション「DataClasys」とメール誤送信対策ソリューション「BRODIAEA safeAttach」との連携によるソリューション提供を開始
8月	テクマトリックス、grasys社とパートナー契約締結
	Java対応テスト自動化ツール「Jtest 2020.1」の販売を開始
	クロス・ヘッド、サイボウズGaroonとMicrosoft Teamsとの予定同期を可能にするサービスを提供
9月	統合監視/インシデント対応を行うサービス「TPS」にサイバーセキュリティ保険を自動付帯し提供を開始
	テクマトリックス、福岡県福岡市に九州営業所を開設 西日本地域でのサービス提供を強化
	株式会社NOBORI、COVID-19肺炎AIの無償支援プロジェクト拡大のお知らせ
	株式会社カサレアル、HashiCorpとトレーニングパートナー契約を締結

日付	内容
10月	株式会社NOBORI、京都府の肺がん検診における胸部X線画像診断補助ツールの試験導入を支援
	沖縄クロス・ヘッド、株式会社オーシーシーと日本HP製のリモートアクセスツールを利用した映像制作者向けテレワークサービスの提供開始
	株式会社NOBORI、医用画像診断支援AIプラットフォームにおける画像診断支援ソフトウェアサービス提供を拡充
11月	当社社外取締役・堀江愛利が米国メディアEntrepreneurの「100 Powerful Women of 2020」に選出
	日本最大級のコンタクトセンター関係者向けイベント「テクマトリックス CRM FORUM 2021」を3DAYS・オンラインで開催すると発表（開催時期：2021年2月17日～19日）
	当社連結子会社である株式会社NOBORIの医療画像のAI診断の取組が日本経済新聞に掲載
	Dell Technologies より Services Delivery Excellence Award を受賞
12月	F5ネットワークス「NGINXアプリケーションプラットフォーム」の販売を開始
	セキュリティアナリストの判断・分析業務を行うAIをクロス・ヘッドと共同開発
	パロアルトネットワークス株式会社より2020年のJAPAN Distribution Partner of the Year を受賞
	アグリカルチャープラットフォームを提供するインドのベンチャー企業に資本参加

日付	内容
1月	教育業界向けにスクール・コミュニケーション・プラットフォーム + 校務支援システム「ツムギノ (tsumugino)」を販売開始
	従業員のコンディションと生産性の関係性について研究を開始
	DXのデータ連携に欠かせないAPIのテスト自動化と仮想化を1ツールで実現する「SOAtest/Virtualize 2020.2」の販売を開始
	統合監視とインシデント対応支援を提供するサービス『TPS』に脆弱性管理オプションサービスを拡充
	C 言語/C++言語対応テストツール「C++test 2020.2」の販売を開始
2月	C# / VB.NET 対応静的解析・動的解析ツール「dotTEST 2020.2」の販売を開始
	金融商品評価・分析ツール「FINCAD Analytics Suite 2021」国内販売を開始
	日本電気株式会社と販売代理店契約を締結～NECが新たにFastSeries クラウドサービスの販売を開始～
3月	日本プルーフポイント株式会社より「PARTNER OF THE YEAR」を受賞
	クロス・ヘッド、サイボウズGaroonからMicrosoft Teamsへの連携API「CROSSLINK 365 Teams連携」プラグイン版の提供を開始
	インシデント対応とフォレンジックを提供する新サービスの提供を開始
	テレビ番組「賢者の選択 FUSION」に当社代表取締役 由利孝が出演します
	水戸市との協働による市民の声・広聴業務向けシステム「FastHelp Ce」試験導入による実証実験結果について

3. 2022年3月期業績予想

* IFRS基準

- ◆ 2021年3月期の有価証券報告書より国際財務報告基準（IFRS）を任意適用いたします。そのため、本資料に記載される**2022年3月期の業績予想につきましては、IFRS基準にて作成しております。**
- ◆ **IFRS基準での2021年3月期の決算は、本年6月下旬において開示予定ですが、業績予想の前期比較の参考として、IFRS基準での2021年3月期決算の推定数値を算出し、**2022年3月期の業績予想を説明させていただいております。

※なお、2021年3月期の推定数字は監査未了の参考数値であり実績数字において変更される可能性があります。

	21年3月期 (* 当期実績)	22年3月期 (* 業績予想)
業績報告に用いる 会計基準	日本基準 + 新収益認識基準 * 1	IFRS基準
受注高への影響 受注残高への影響	—	特段ありません
営業利益への影響	—	21年3月期における会計処理方法と比較して、主に以下の点で影響があります。 1) IFRS移行に伴う会計処理の変更 <u>当該変更により、減益の効果が生じる見込みです。</u> 2) 連結範囲の変更 既存子会社 2 社を連結決算に対象に追加します。 <u>当該変更により、現時点の予想では増収・減益の効果が生じる見込みです。</u> IFRS基準での21年3月期の決算実績は、有価証券報告書提出予定の6月下旬に開示予定です。

* 1 企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」を早期適用しているものです。

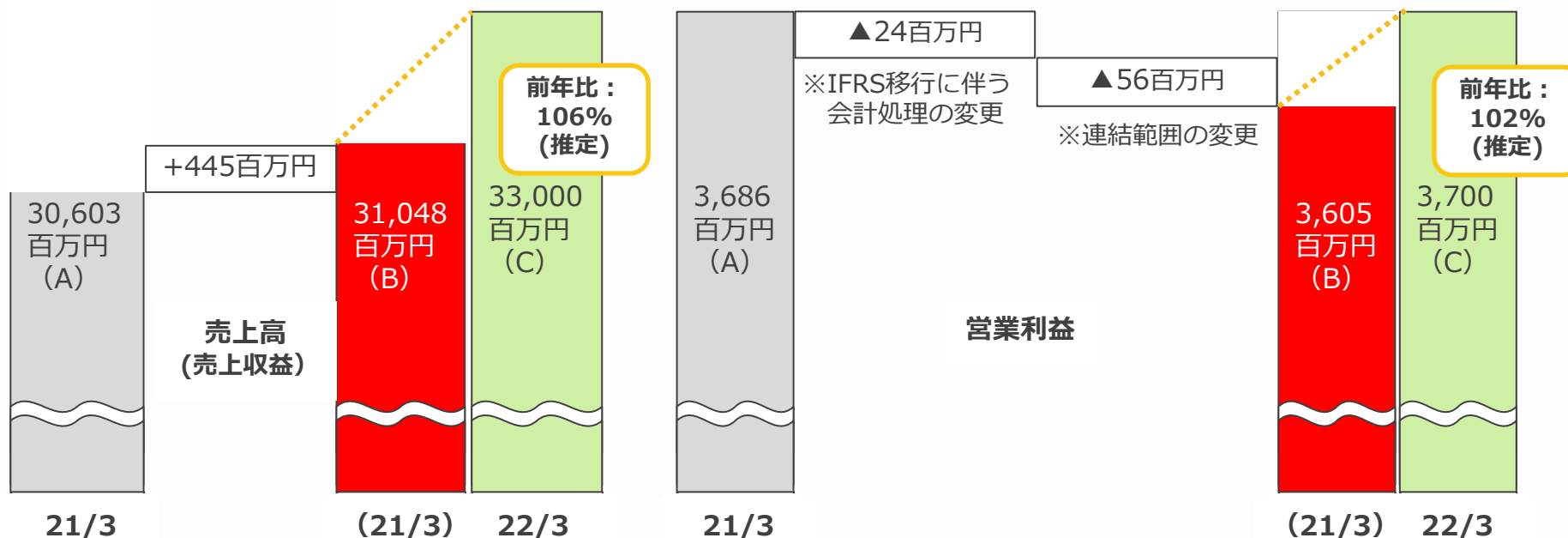
※参考 推定数値による業績予想の前年比較

		21年3月期 実績	22年3月期 予想
日本基準	売上高	30,603百万円 (A)	-
	営業利益	3,686百万円 (A)	
IFRS	売上高 (売上収益)	(B) IFRS版決算短信にて開示予定※6月頃予定	33,000百万円(C)
	営業利益		3,700百万円(C)

推定数値

※参考

※2021年3月期の推定数値は監査未了の参考数値であり実績数字において変更される可能性があります。



＜連結・セグメント別業績予想＞ ＊IFRS基準

2022年3月期 (業績予想)	売上高（売上収益） (百万円)	営業利益 (百万円)
情報基盤事業	23,000	3,000
アプリケーション・ サービス事業	10,000	700
合計	33,000	3,700

◆ 情報基盤事業：

- サイバーセキュリティ関連市場の需要が引き続き旺盛であることを想定
- クラウド型サイバーセキュリティ対策製品の需要伸長、オンプレミス型製品も安定成長を見込む
- 前年度においてリモートアクセス関連製品の特需が発生するも、当事業年度は当該特需は見込まず

◆ アプリケーションサービス事業：

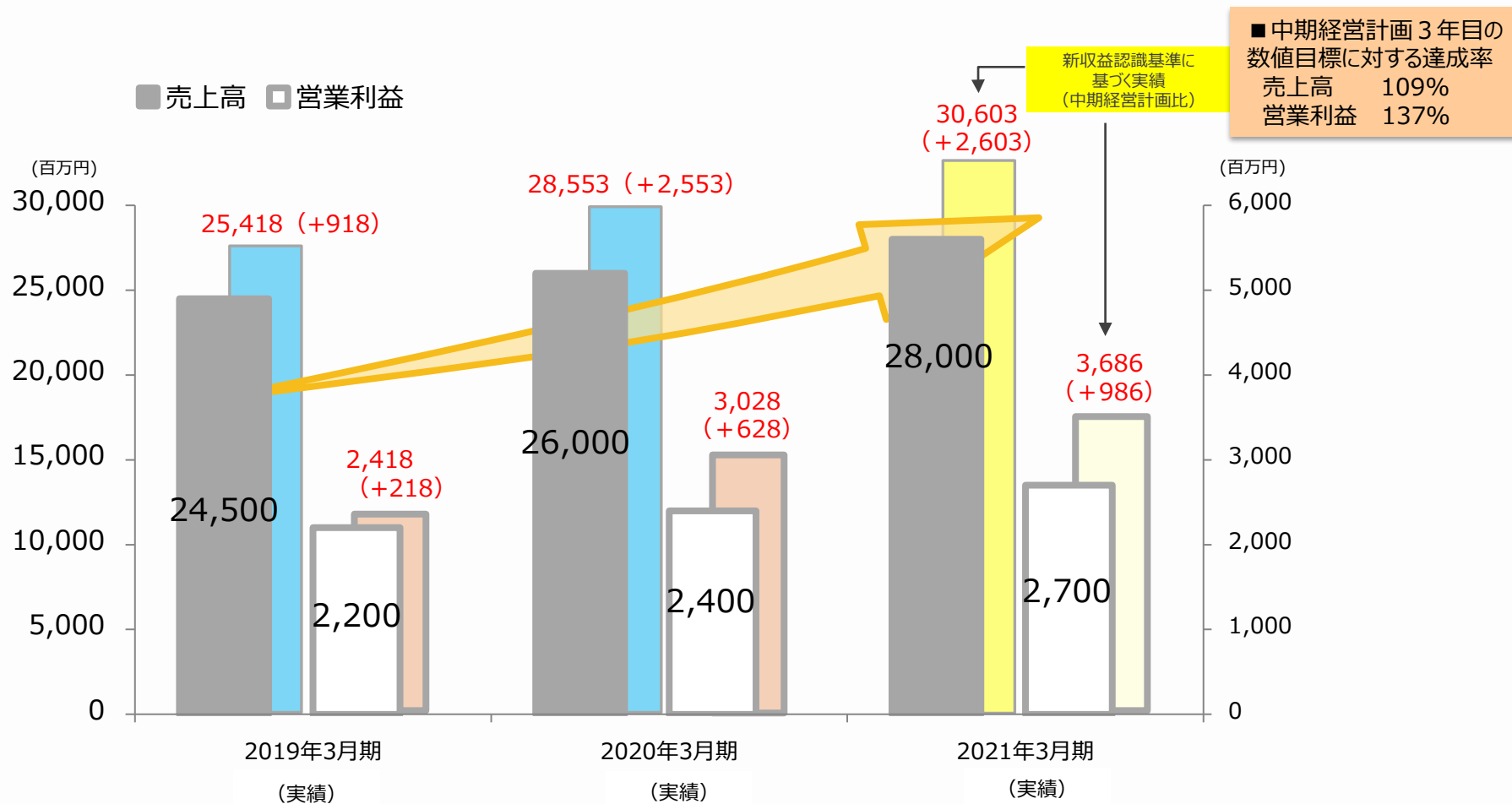
- 教育事業の垂直立上げ／CRM分野での海外事業拡大に向けた積極投資を実施予定
- 一部製品において永久ライセンスモデルからサブスクリプションライセンスモデルへの移行を予定
- 医療分野におけるPHRサービス及びAI関連ビジネスは時間をかけて収益に貢献する見込み
- ビジネスソリューション・ソフトウェア品質保証・CRM分野では、引き続き顧客での意思決定が遅延する傾向
- 過去2年間CRM分野において発生したバージョンアップ需要については前年度で一巡

◆ 共通：

- 昨年1Qにおいて参加自粛した各種展示会・イベントへの積極参加を予定
- 前年度において非連結対象であった連結子会社の売上高（売上収益）・営業利益/損失を加算

4. 中期経営計画振り返り 「GO BEYOND 3.0」

GO BEYOND 3.0 振り返り(定量面)

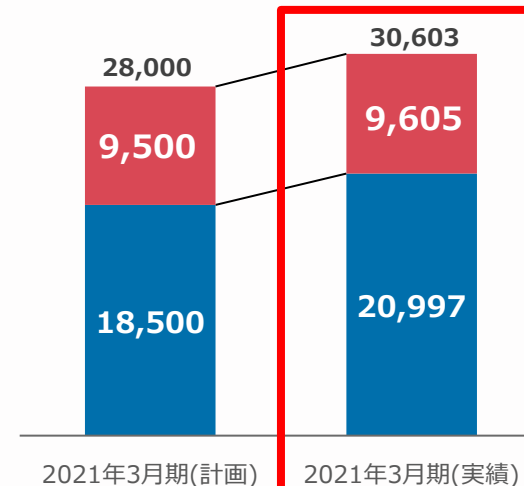
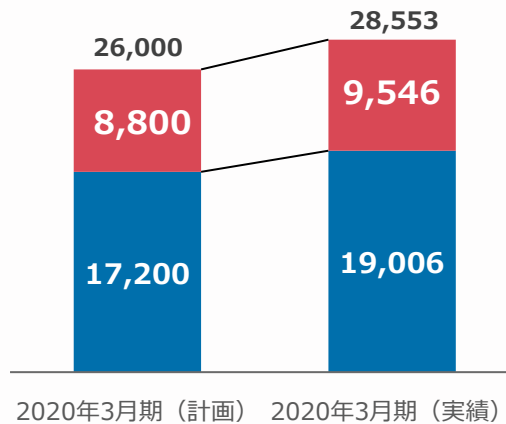
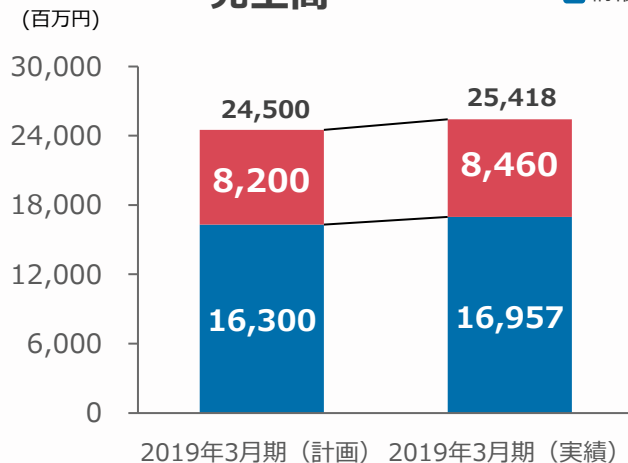


GO BEYOND 3.0 振り返り(定量面) ※セグメント別

新収益認識基準
に基づく実績

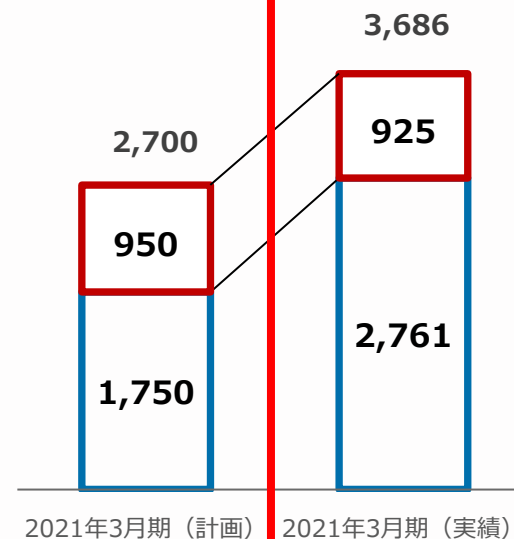
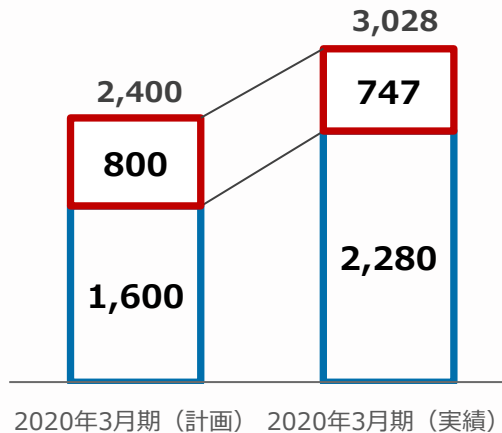
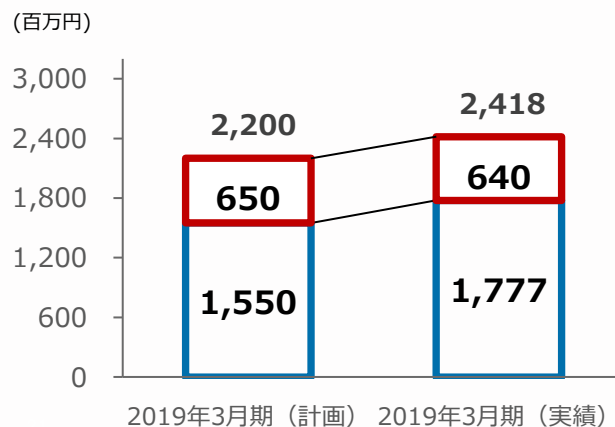
売上高

■ 情報基盤事業 ■ アプリケーション・サービス事業



営業利益

□ 情報基盤事業 □ アプリケーション・サービス事業



GO BEYOND 3.0 振り返り(定量面) ※セグメント別

情報基盤事業

	19年3月期～21年3月期（実績）
売上高 CAGR（%）	9.9
営業利益 CAGR（%）	21.1
	21年3月期（予想）
営業利益率（%） (2021年3月期 実績)	9.5 (13.1)
(2020年3月期 実績)	(11.9)
(2019年3月期 実績)	(10.5)
(2018年3月期 実績)	(9.8)

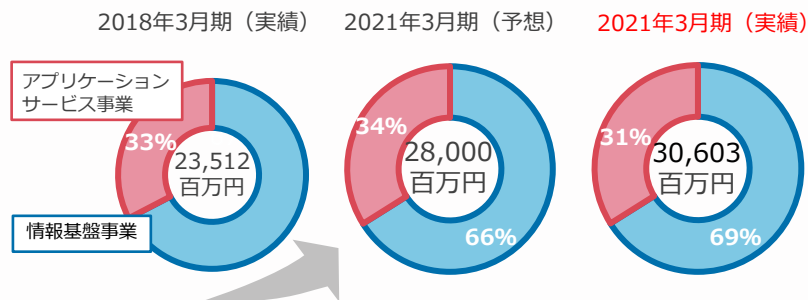
※事業構造の積極的転換・差別化のための独自付加価値サービスの創出に注力

アプリケーション・サービス事業

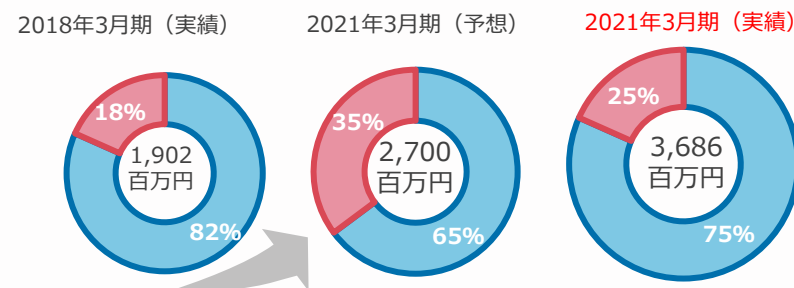
	19年3月期～21年3月期（実績）
売上高 CAGR（%）	7.8
営業利益 CAGR（%）	38.3
	21年3月期（予想）
営業利益率（%） (2021年3月期 実績)	10.0 (9.6)
(2020年3月期 実績)	(7.8)
(2019年3月期 実績)	(7.6)
(2018年3月期 実績)	(4.5)

※ストック型ビジネスの伸長による収穫期への移行

売上高

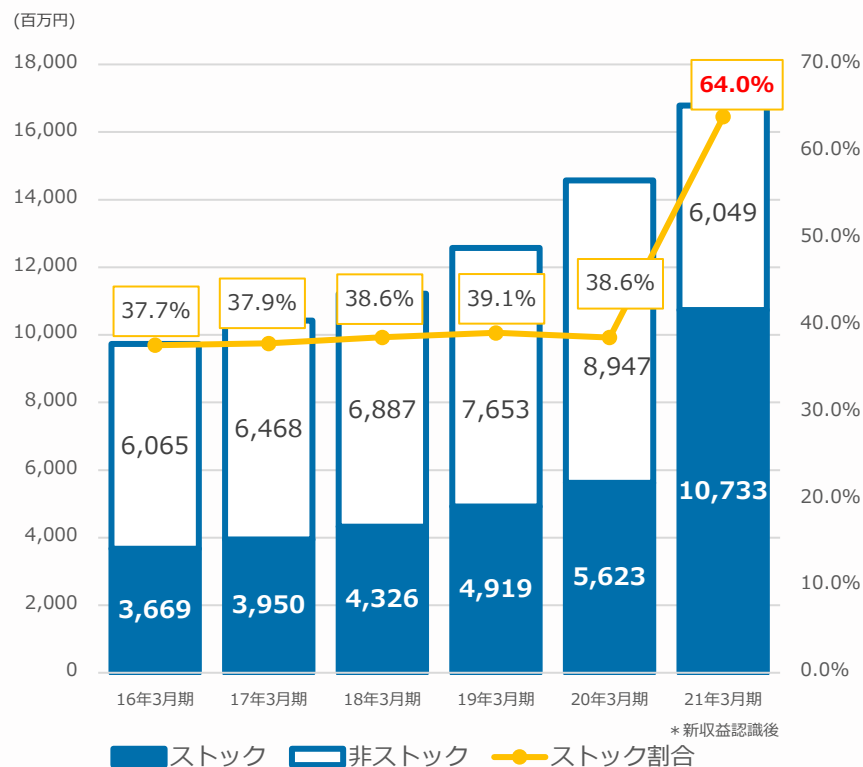


営業利益



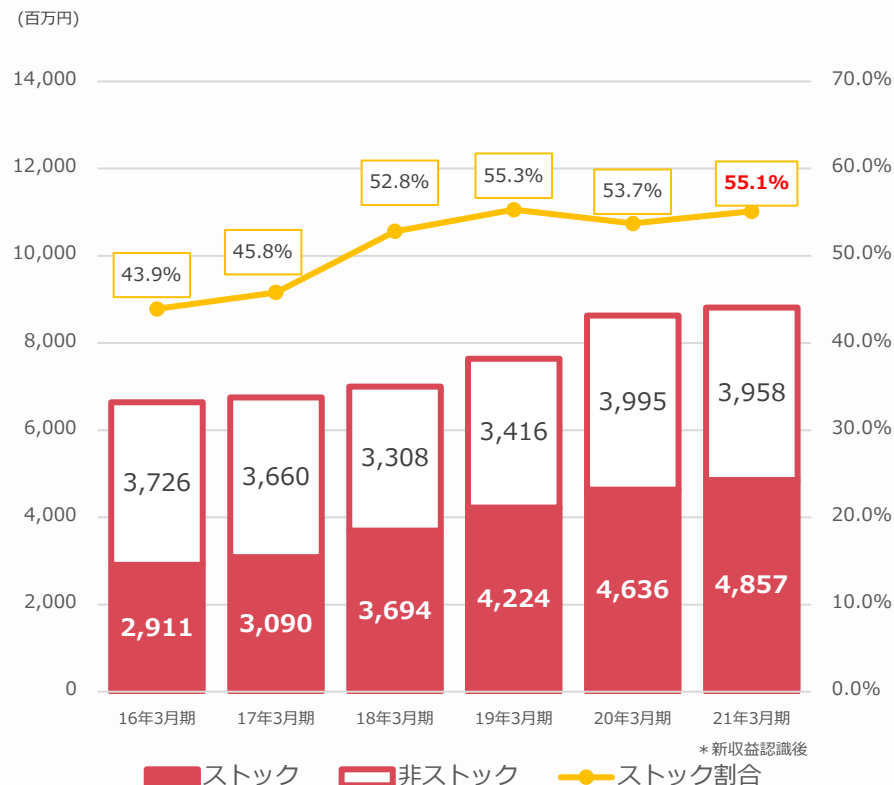
GO BEYOND 3.0 振り返り(定量面) ※ストック比率

情報基盤事業



* 新収益認識基準適用により、これまでフローとして計上していた売上（保守一体の製品販売や一部のサブスクリプション型）を厳格にストック計上。これにより、情報基盤事業のストック比率が向上。

アプリケーション・サービス事業



* 新収益認識基準適用により、これまでフローとして計上していた売上（主にデストツールの売上）を厳格にストック計上。従前からのクラウドビジネスの積み上げも奏功し、アプリケーション・サービス事業は、ストック比率が向上。

TMX 3.0 の事業戦略は引き続き継続

- ・ クラウド関連事業の戦略的・加速度的推進
- ・ セキュリティ&セイフティ（安心と安全）の追求

7つの事業戦略

自己評価

1	事業運営体制の多様化 (資本提携、業務提携、大学・研究機関との連携、オープンイノベーション)
2	サービス化の加速(全領域)
3	データの利活用(AIの利用を含む)
4	BtoC(消費者向けビジネス)への参入
5	海外市場での事業を加速(市場探査モードから次のステップへ)
6	事業運営基盤の強化 (グループ横断・事業部門内での人財や技術の有効活用、各分野の融合による新しい価値の創出、人財への投資と次世代の育成、企業理念に基づく採用・育成・評価・リテンション)
7	M&A(金庫株の活用を含む)



項目	自己評価	内容
1)事業運営体制の多様化 (資本提携、業務提携、大学・研究機関との連携、オープンイノベーション)	◎	■医療システム事業部を分社化し、三井物産と合併で株式会社NOBORIを設立 ・エムスリー株式会社との業務提携 ・エルピクセル株式会社への出資を実施 ・株式会社A-Lineと資本・業務提携 ■ビジネスソリューション分野の金融分野において、山崎情報設計株式会社と資本業務提携 ■スタートアップ企業とのアライアンス拡大を目的に、AI及びフィンテック関連ファンドへの投資を実施 ■新規事業開発において、軽井沢風越学園と共同で教育向けコミュニケーションプラットフォームを開発
2)サービス化の加速 (全領域)	○	■リモートアクセス装置(BIG-IP APM)を利用した、独自のクラウドサービス「Trusted Gateway」の提供を開始 ■次世代統合監視サービス『TechMatrix Premium Support powered by TRINITY』の提供を開始 ・提供開始後においても保険付帯、インシデント対応等のサービスの高度化を実施 ■クロス・ヘッド株式会社にて、サイボウズ社のGaroonを中心に、各種連携APIサービスのさらなる拡充を実施 ■Webベーステスト管理ツールのクラウドサービスの開発に着手 ■リスク評価・分析に関するCVAサービスの拡充を実施
3)データの利活用(AIの利用を含む)	◎	■新規事業開発及びデータ活用、AI等の最新技術や最新事例の研究を推進するため新規事業開発室を新設 ■AIによる医用画像診断支援システムの共同開発を複数のAIベンチャー/医療機関と協業の上進行中 ・AIを用いた医師の診断支援サービスを開発 ■ソフトウェア品質保証分野において、機械学習システムの品質評価に関する研究開発を進行中 ■自社CRMシステムと各種AIソリューションの連携が進展 ・音声認識・自動要約・分類等 ■セキュリティアナリストの判断・分析業務を行うAIをクロス・ヘッド株式会社と共同開発 ■AI活用による与信管理精度向上に向けた実証実験をリスクモンスター株式会社と共同で実施

項目	自己評価	内容
4) BtoC(消費者向けビジネス)への参入	◎	■株式会社NOBORIにおいて、複数病院と実証実験を経て、個人向け(患者向け)のPHRサービス(Personal Health Record)の提供を開始 ・2020年に正式リリース、2021年より有料版提供開始
5) 海外市場での事業を加速(市場探索モードから次のステップへ)	△	■ASEANにおけるCRM事業拡大のため、タイ・バンコクに駐在員事務所を新設 ・着実に導入案件の拡大は進捗しているものの、今後業務提携を含めた事業拡大に向けたテコ入れを検討中
6) 事業運営基盤の強化 (グループ横断・事業部門内での人財や技術の有効活用、各分野の融合による新しい価値の創出、人財への投資と次世代の育成、企業理念に基づく採用・育成・評価・リテンション)	○	■情報基盤事業におけるクラウド・ネイティブ関連技術の強化に向け、カサレアルとタイアップ ・さらなる価値創造機会の創出に向けて検討中 ■DevOps・アジャイル技術に関してソフトウェア品質保証分野とカサレアルがタイアップ ■新人事制度の導入に向けた取組みを推進(2022年4月より新人事制度の運用開始を予定) ■社員のキャリア形成支援を目的に人事制度の変更を実施。 ・人事制度社員の積極的なキャリアアップを支援するための「キャリアデザイン制度」の導入 ・社員が能力・経験をより良い形で発揮できる場を主体的に切り拓くことができる環境を提供するための「キャリアチャレンジ制度」の導入
7) M&A(金庫株の活用を含む)	○	■将来のM&Aに向けた資金調達を目的に、第三者割当による新株予約権発行(総額約40億円強の資金を調達) ■株式会社NOBORIが、株式会社A-Lineと資本・業務提携 ■金融分野において、山崎情報設計株式会社と資本・業務提携

TechMatrix Premium Support powered by TRINITY

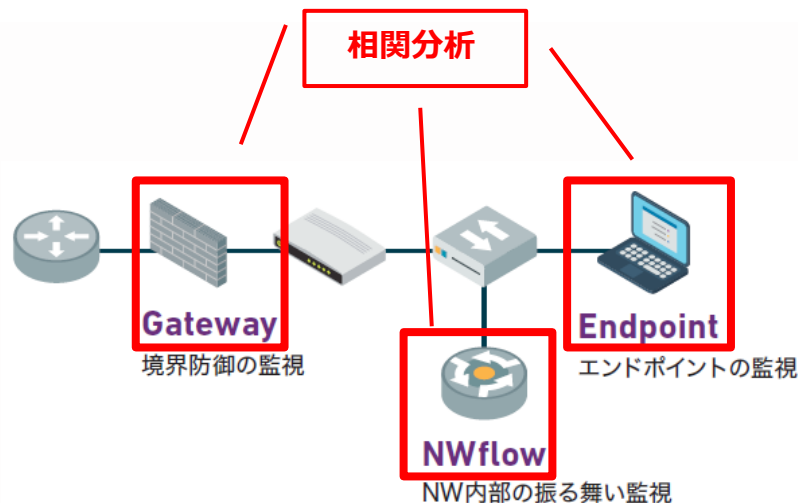
テクマトリックスが**独自開発**した、数百パターンに及ぶ脅威シナリオによって
相関分析を行う**セキュリティ統合監視サービス**

※TRINITY<トリニティ>は、ICT基盤の運用代行や監視を行うテクマトリックスの独自サービスです。

■従来のデバイス単体監視の課題

- 1) 従来の単一製品の監視では、事象に対して『**点**』の**分析**となってしまう。
- 2) **各製品毎**に運用担当者や監視ベンダが異なることで、調査や情報連携、**一次対応が遅延**してしまう。
- 3) 暗号化通信の増加や巧妙化した攻撃手法により、**監視・分析が困難な通信が増加傾向**にある。

■網羅的な統合セキュリティサービスを提供し『**点**』ではなく『**面**』で捉える



企業組織内のネットワークで発生する様々なセキュリティインシデントを『**点**』ではなく『**面**』で捉える

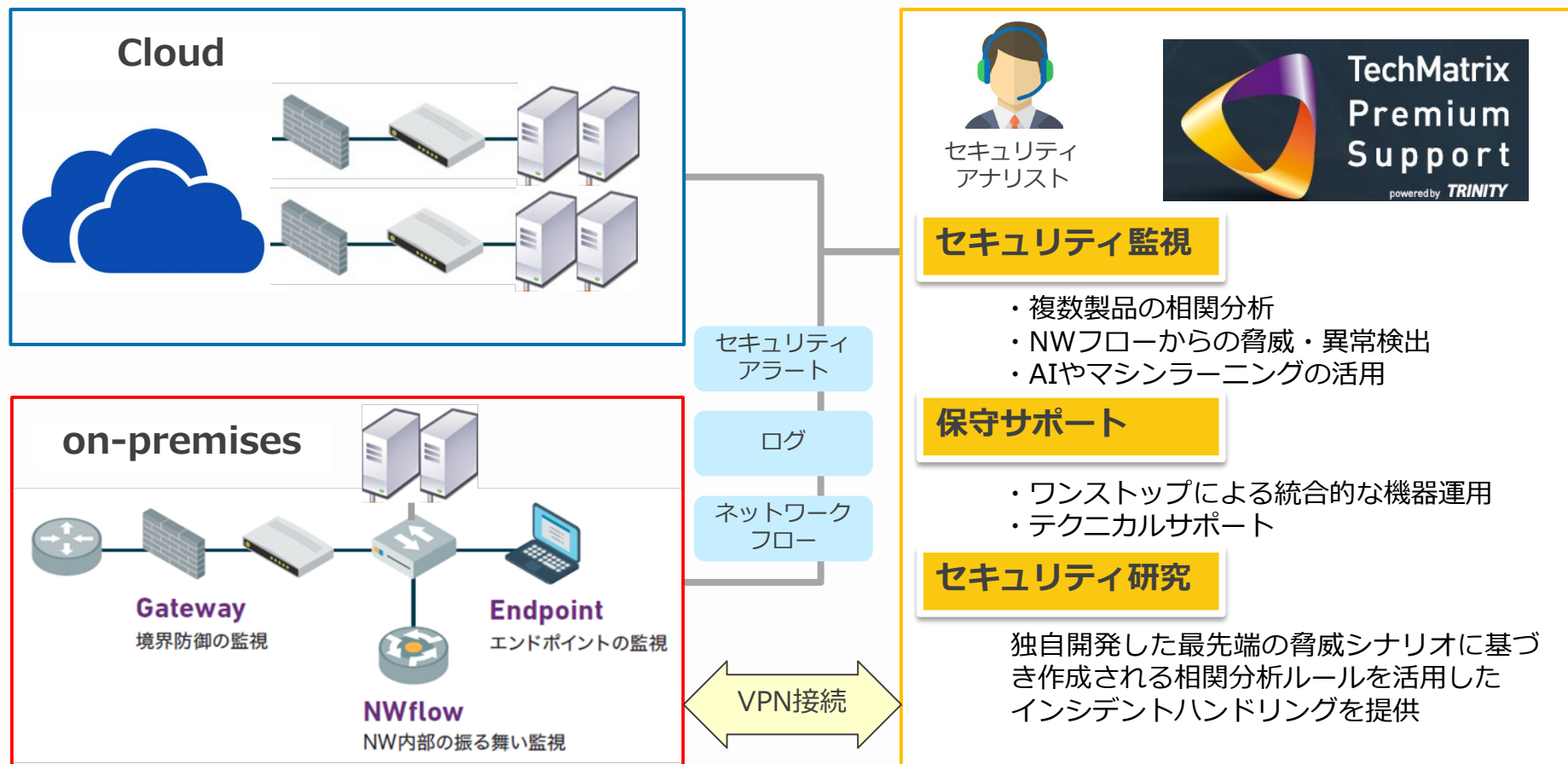
「TechMatrix Premium Support powered by TRINITY」

では、ゲートウェイ、ネットワーク内部、エンドポイントの3点を軸とした網羅的な統合セキュリティ監視と**相関分析**を行い、**未知マルウェア**に対するセキュリティ対策基盤の強化を実現します。

TechMatrix Premium Support powered by TRINITY

「包括的な脅威の検出と可視化」と「セキュリティ運用の効率化」を提供し
未知のマルウェアに対する**セキュリティ対策基盤の強化**を実現します。

※TRINITY<トリニティ>は、ICT基盤の運用代行や監視を行うテクマトリックスの独自サービスです。



クラウドセキュリティの需要の高まり

<統一されたセキュリティポリシーの重要性>

- テレワークの普及、他拠点企業におけるセキュリティポリシー統一の必要性が高まる

Point ! ➡ デバイスや利用者のロケーションに依存しないセキュリティの提供

SASE : Secure Access Service Edge (サッシー) の略でネットワークとネットワークセキュリティを単一のフレームワークで提供するクラウドサービス

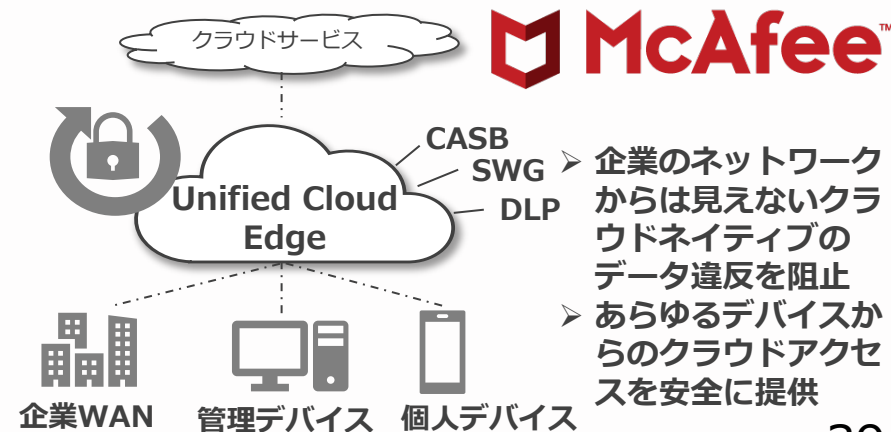
Palo Alto Networks Prisma Access

～次世代ファイアウォールの機能をクラウド上で提供～

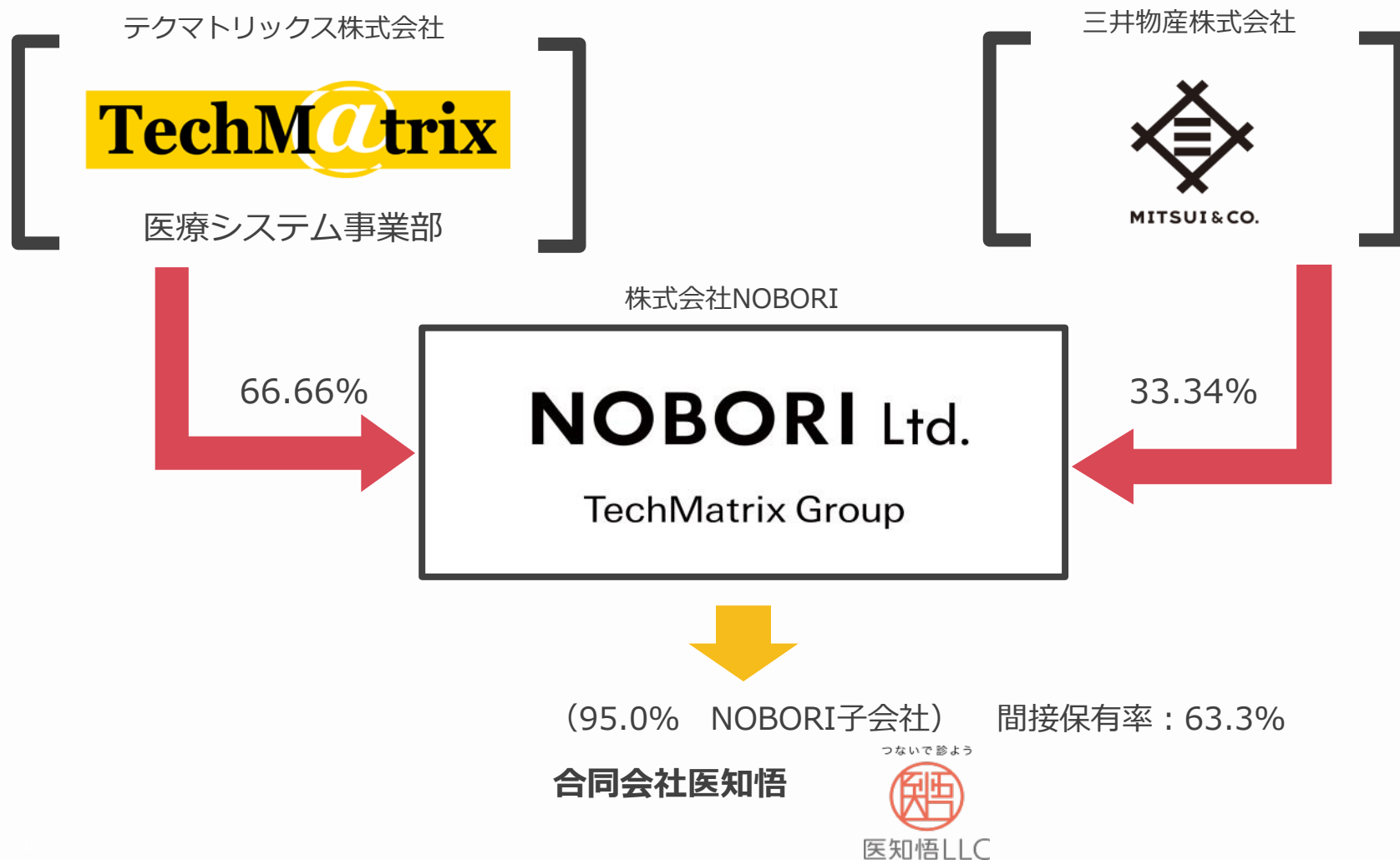


McAfee MVISION Unified Cloud Edge

～デバイスからクラウドまで網羅・一貫したデータ・脅威からの保護とコントロール～



2018年4月、医療情報クラウドサービス「NOBORI」を提供する医療システム事業部を株式会社NOBORIに承継。医療分野での更なる成長を目指す。



35,826,000

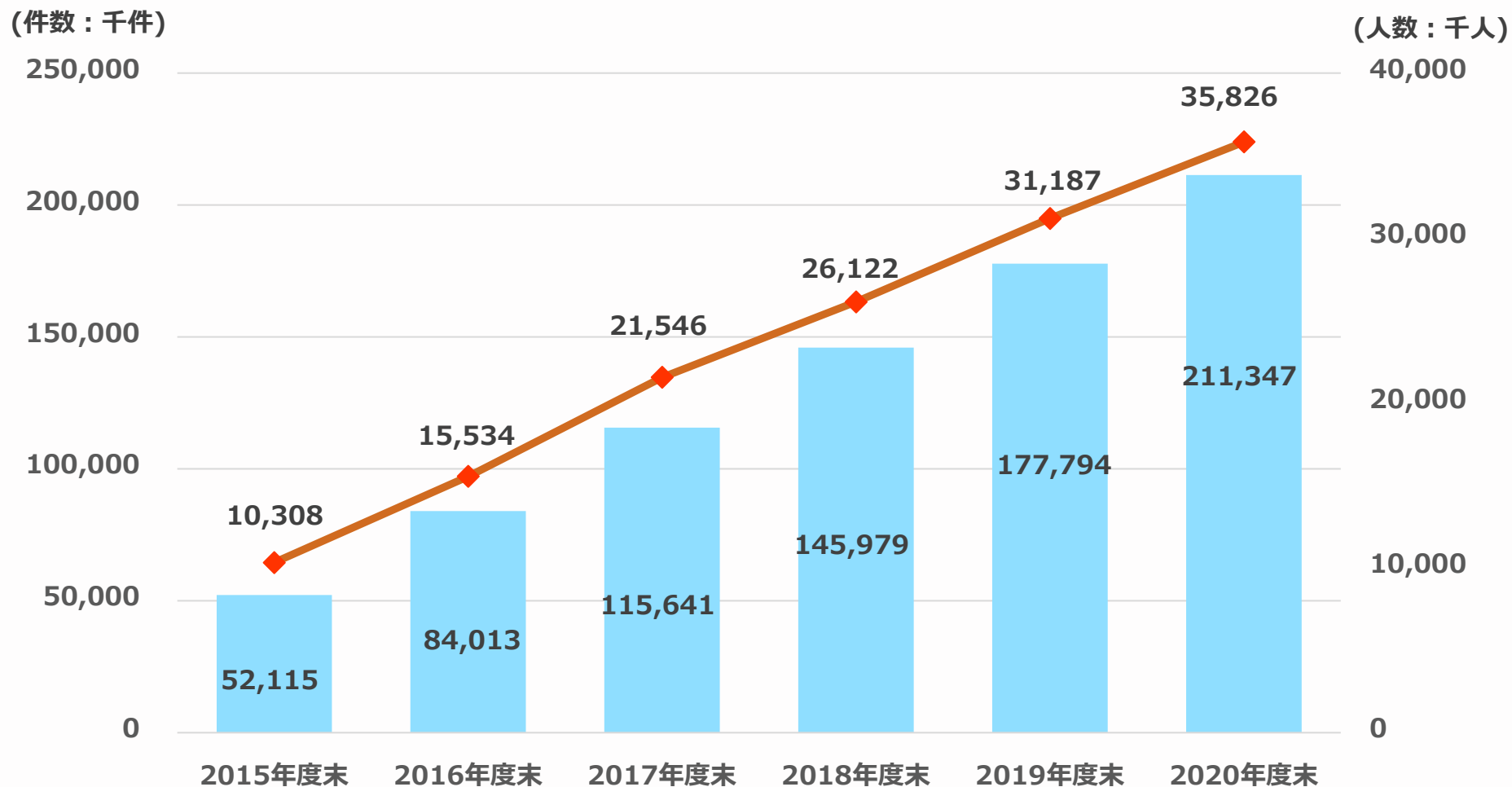
「NOBORI」に画像を保管している患者数

211,347,000

「NOBORI」に保存する検査件数

(2021年3月末時点)

NOBORI保存データ推移



■ 「NOBORI」に保存する検査数（左目盛） ◆ 「NOBORI」に画像を保管している患者数（右目盛）

NOBORI

エムスリー株式会社と業務提携、両社にて医用画像診断支援AIプラットフォーム事業を推進

＜AIプラットフォームにおける画像診断支援ソフトは順次拡充＞

➤ 今後も順次取り扱いAIの拡充ならびに利用医療機関の拡大を目指します

病状	AI開発企業	補足
脳動脈瘤	エルピクセル*	・ 脳の血管から脳動脈に似た候補を検出
肺がん		・ レントゲン画像から肺がんの疑い部位を検出
新型コロナウイルス	アリババ・エムスリー	・ 肺炎の有無を判別
肺結節	ビューノ	・ 韓国で100万件以上の画像をもとに開発 ・ 2020年10月に取扱開始

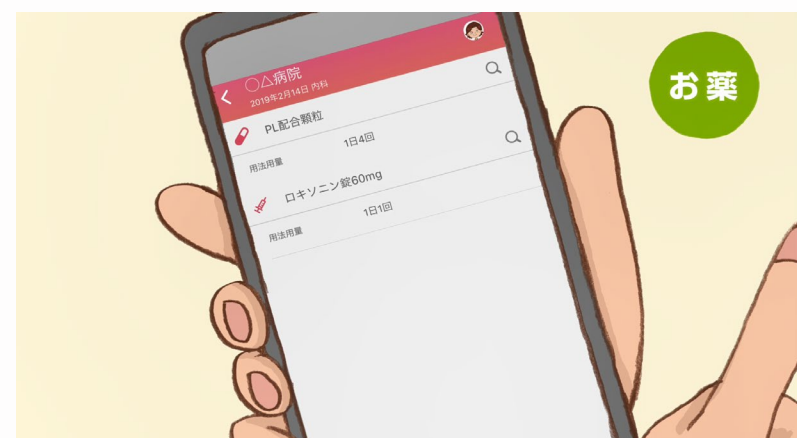
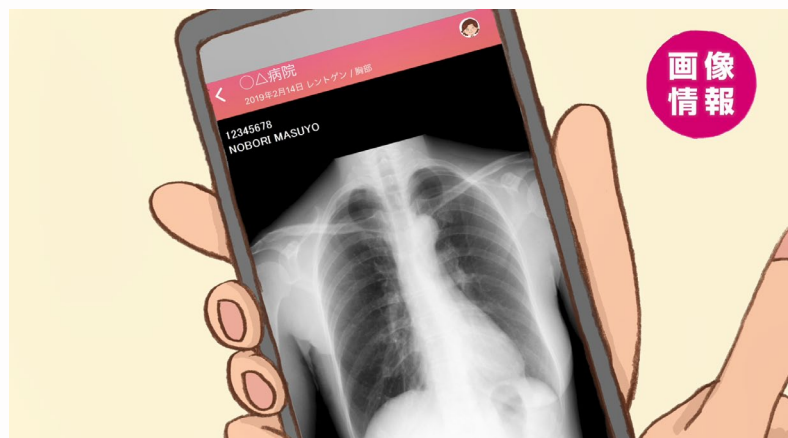
【プレスリリース詳細】* 日本経済新聞に取り上げられました

https://www.techmatrix.co.jp/nc/news/corp_20201112.html?channel=main

*当社は2018年に同社へ出資しています。

NOBORI

個人向け(患者向け)のPHR (Personal Health Record) サービス



教育分野におけるクラウド型サービス、「ツムギノ」をリリース ～スクール・コミュニケーション・プラットフォーム～

ツムギノ (tsumugino) : 学びを 未来へ 紡ぐ + innovation

➤ スクール・コミュニケーションプラット・フォーム + 校務支援システム
「typhoon」をもとにした**クラウド型サービス**



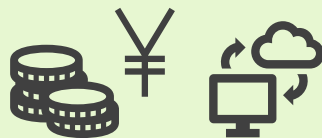
tsumugino

教職員の負担軽減



各種情報を一元管理
教職員の共有・発信も容易
→ **充実した教務・校務支援**

投資コストの負担低減



機器への投資不要
最新のセキュリティを適用
→ **月額利用のクラウド型**

子どもが主役のシステム



子どもの日々の活動を記録
(周囲のフィードバックも)
→ **学びの履歴を蓄積**

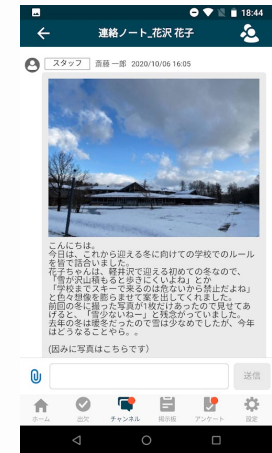
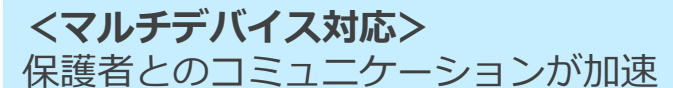
優れたUI/UX



デザイン性・操作性◎
マルチデバイス対応
→ **容易なコミュニケーション**

学校教育をこれまでの全員一斉・受動型から、自主的・探究型へと進化
子ども一人ひとりの未来への可能性を広げます

Point ! 生徒を中心に、あらゆるタッチポイントを統合管理
スチューデントジャーニーの可視化⇒その情報を最大限に有効活用



スクール・コミュニケーション・プラットフォーム+
校務支援システム「ツムギノ」

* URL : <https://tsumugino.jp>

5. 新中期経営計画

「BEYOND THE NEW NORMAL」

テクマトリックスの企業理念

**未来創造型企業として新しい時代を生き抜くには、
新規事業の創出が不可欠**

Mission Statement

より良い未来を創造するITのプロフェッショナル集団

行動指針

- 共存・共栄の精神のもと、誠実、かつ真摯に顧客貢献・社会貢献に取り組む
- 常に謙虚に学ぶ姿勢を忘れず、新しい技術や新しいビジネスに挑戦し続ける
- オープンな議論を交わし、全員がチームの成功と成長にコミットする

BEYOND THE NEW NORMAL

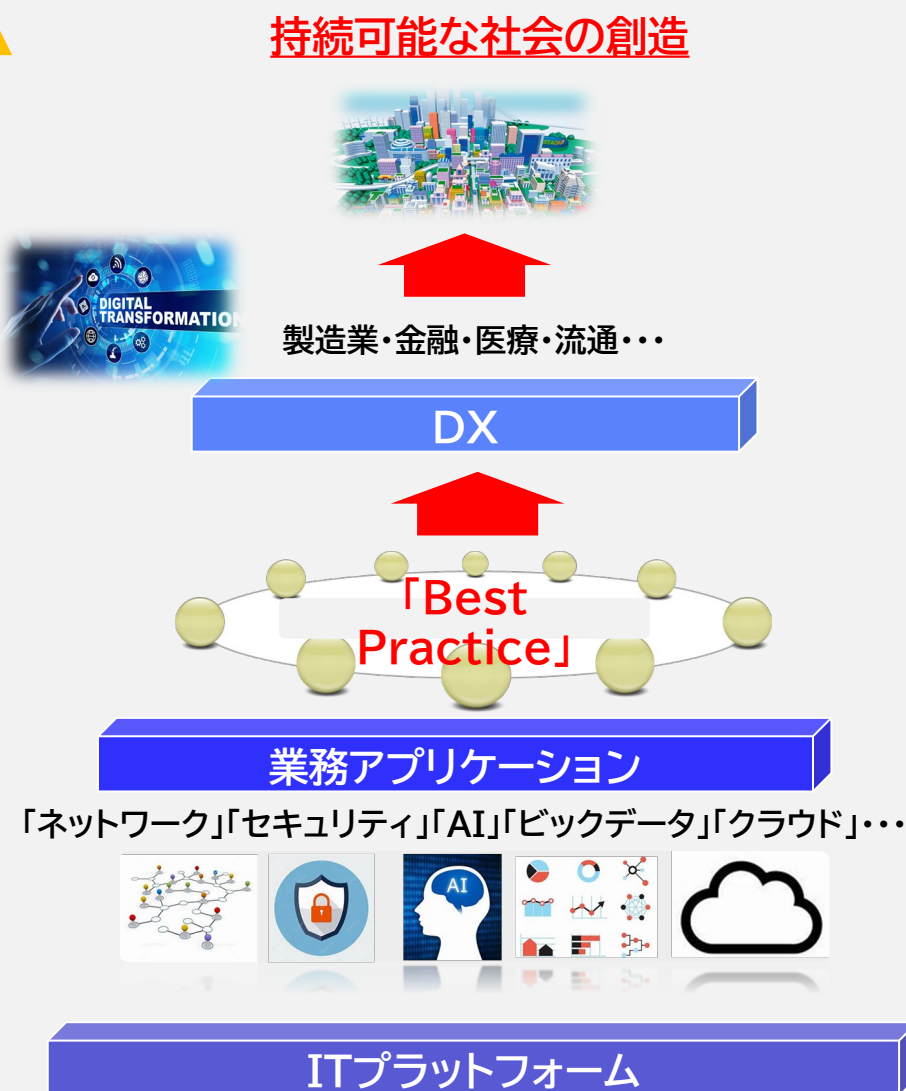
テクマトリックスグループは
デジタル化への急激なシフトと産業構造の劇的な変化を
新たな成長機会と捉え

社会にとって必要不可欠な領域に向けた事業を加速し
社会課題を解決するためのサービスの提供を通して
持続可能な社会の創造に貢献する。

デジタル化を支える情報基盤・技術・サービスの提供

最善の手法である「Best Practice」を
誰にも使いやすいUXを通してクラウド型で提供

持続可能な社会の創造に向けたサービス価値の提供



TechMatrix

誰にも使いやすいUXで
『クラウド型業務アプリケーション』を提供

内製化を推進するための
『各種開発支援ツール』を提供

社会インフラとして安心・安全を確保する
『セキュリティソリューション』を提供

持続可能な社会の創造に向けたサービス価値の提供

SDGs (持続可能な開発目標) 17の目標と169のターゲット

目標		ターゲット(一部抜粋)	当社Gのソリューション	情報 基盤	アプ リサ
3 すべての人に 健康と福祉を	すべての人に 健康と福祉を	(3.6)2020年までに世界の道路交通事故による死傷者を半減させる (3.8)質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス	未来型自動車の開発支援 医療クラウドサービス PHRサービス 遠隔読影サービス 線量管理クラウドサービス		○
8 働きがいも 経済成長も	働きがいも 経済成長も	(8.2)多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する (8.3)生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進する	全事業分野 コンタクトセンター業務の効率化	○	○
9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	産業と技術革新の 基盤をつくろう	(9.1)地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱(レジリエント)なインフラを開発する	セキュアなネットワーク環境の構築支援	○	○
10 人や国の不平等を なくそう	人や国の不平等を なくそう	(10.5)世界金融市場と金融機関に対する規制とモニタリングを改善し、こうした規制の実施を強化する	ビジネスソリューション金融サービス		○
4 質の高い教育を みんなに	質の高い教育を みんなに	(4.1)全ての子供が男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする (4.4)技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる	教育プラットフォームシステムの提供 IT技術者の教育研修		○

TMX 3.0 の事業戦略は引き続き継続

- ・ クラウド関連事業の戦略的・加速度的推進
- ・ セキュリティ&セイフティ（安心と安全）の追求

テーマ

コンテンツ
戦略

1

取扱製品の拡大・新規サービスの立ち上げ

2

サービス化の加速（サービス比率拡大）

3

データの利活用（AIの利用を含む）

外部
戦略

4

多様なアライアンス・M&A（既存事業の拡充と新規事業の創出）

5

海外市場での事業の拡大

内部
戦略

6

グループ間連携の強化によるシナジーの創出

7

人材育成/組織開発（ダイバーシティの推進含む）

主要な基本戦略

情報基盤事業

- ・取扱製品/サービスの拡大
- ・代理店(パートナー)と戦略アカウントの深掘り
- ・プロダクト組織とアカウント組織のマトリックス化
- ・専門性の更なる強化と技術力の可視化 (保守対応の可視化、技術情報発信など)
- ・統合監視セキュリティサービス(TPS)の拡販
- ・センター集約型ビジネスの拡大(付加価値の追求)
- ・サブスクリプション販売への移行促進(ストックビジネス強化)

アプリケーション サービス事業

- ・教育事業の垂直立上げに向けた積極投資
- ・AI医療診断支援サービス事業の加速
- ・PHR事業の拡大
- ・CRMサービスのワンストップ化に向けた他ベンダーとの連合・グループの組成
- ・グローバル展開(ASESAN)の加速
- ・AI技術を活用した製品/サービスの創出
- ・ポートフォリオの拡充(ソフトウェア開発基盤ソリューションの独自開発等)
- ・ツールを活用した第三者テスト/検証市場への参入
- ・独自のビジネス分析ソリューションの開発・提供

情報基盤事業

アプリケーション・サービス事業

既存
製品・サービス

新規
製品・サービス

既存市場

市場浸透(深耕/シェアUP)

サイバーセキュリティ対策

代理店(パートナー)と戦略アカウントの
深掘り

製品・サービス拡大



統合セキュリティ監視サービス「TPS」

CRM事業 サービスのワンストップ化

医療事業 AI医療画像診断支援サービス

新規市場

市場開拓

CRM事業 ASESAN展開



多角化

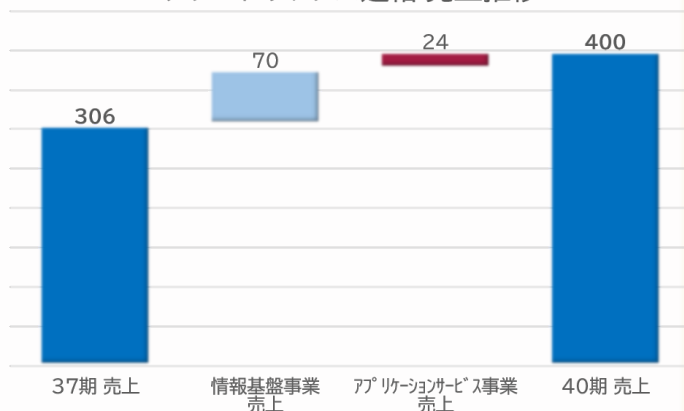
教育事業 「ツムギノ」

医療事業 PHRサービス

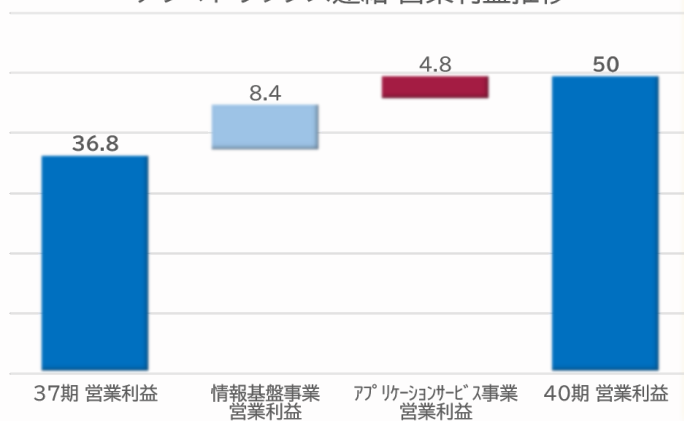


BEYOND THE NEW NORMAL 3カ年計画値 (サマリ) TechMatrix

テクマトリックス連結 売上推移

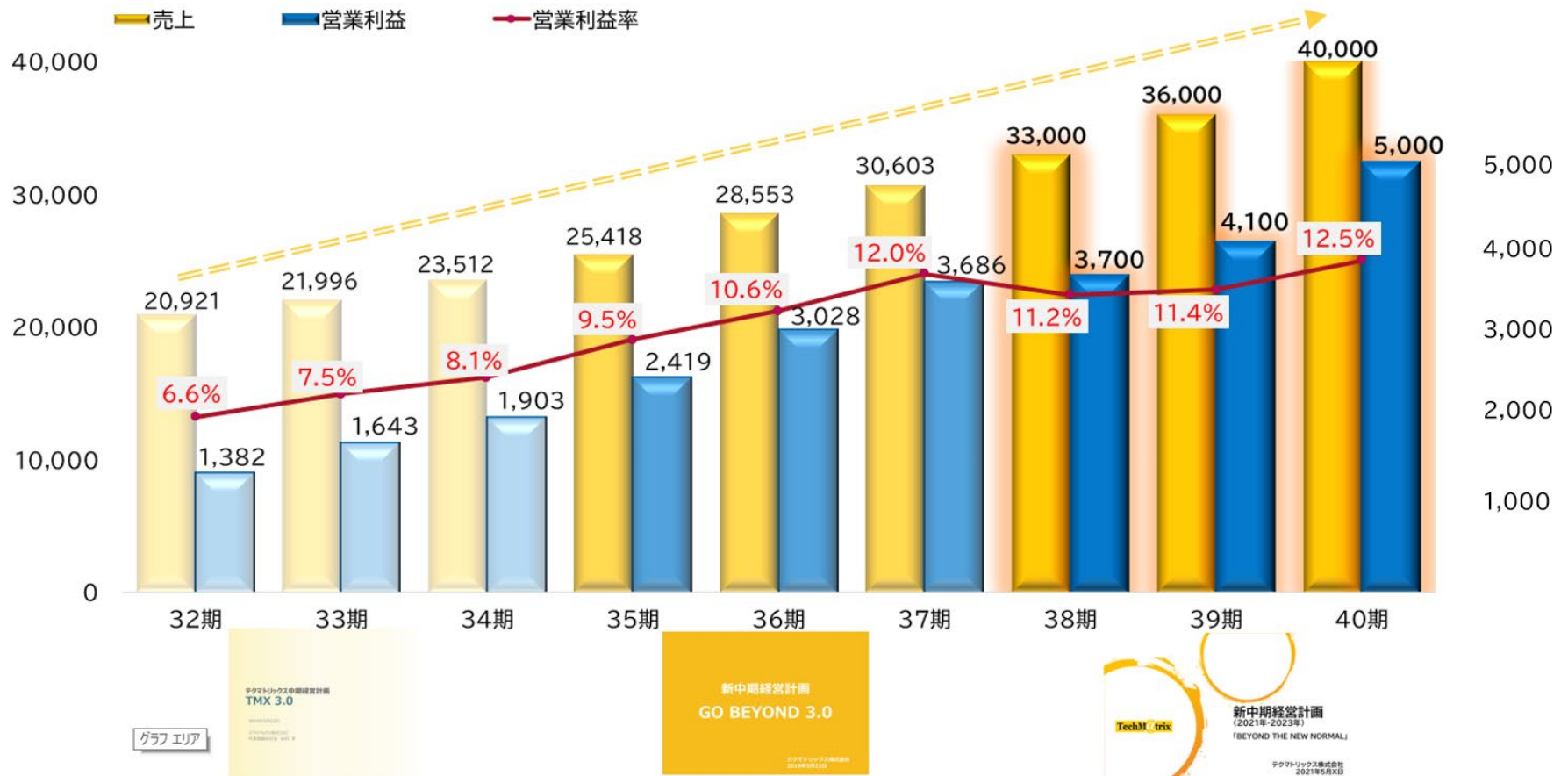


テクマトリックス連結 営業利益推移

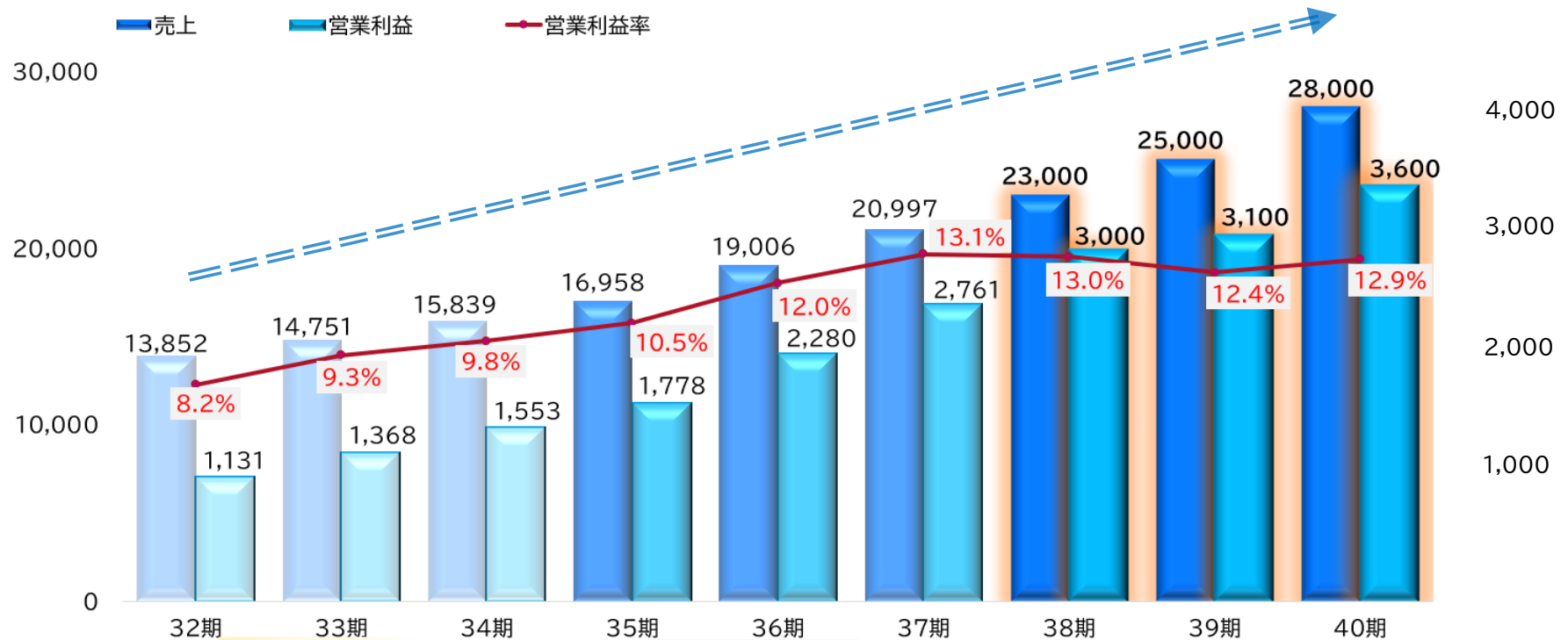


		2021年3月期 実績	2024年3月期 計画	
売上高	全体	306億円	400億円	131%
	情報基盤事業	210億円	280億円	133%
	アプリケーションサービス事業	96億円	120億円	125%
営業利益	全体	36.8億円	50億円	136%
	情報基盤事業	27.6億円	36億円	130%
	アプリケーションサービス事業	9.2億円	14億円	152%
営業利益率	全体	12.0%	12.5%	-
	情報基盤事業	13.1%	12.9%	-
	アプリケーションサービス事業	9.6%	11.7%	-

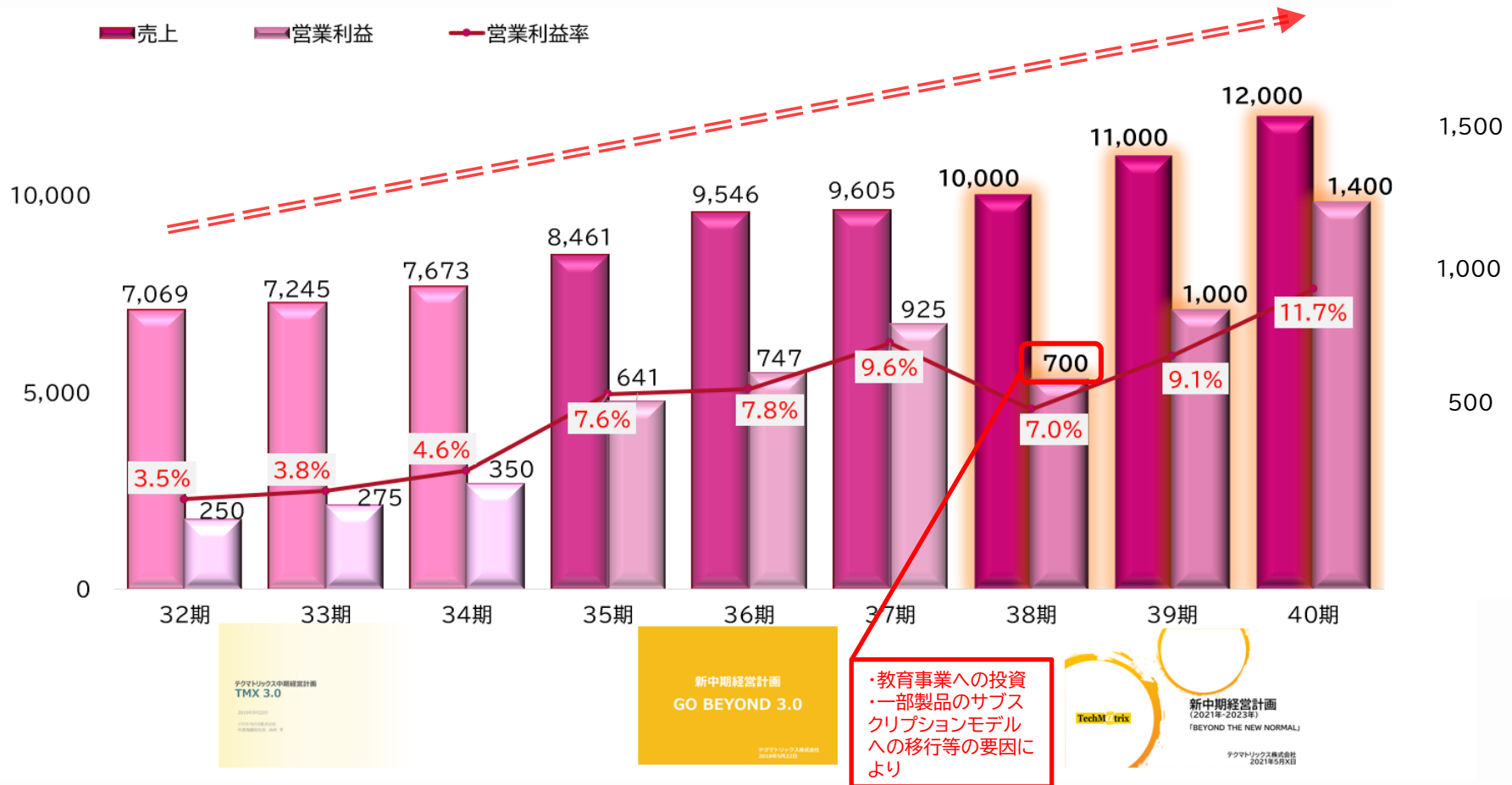
BEYOND THE NEW NORMAL 計画値 (グループ連結)



BEYOND THE NEW NORMAL 計画値 (情報基盤事業)



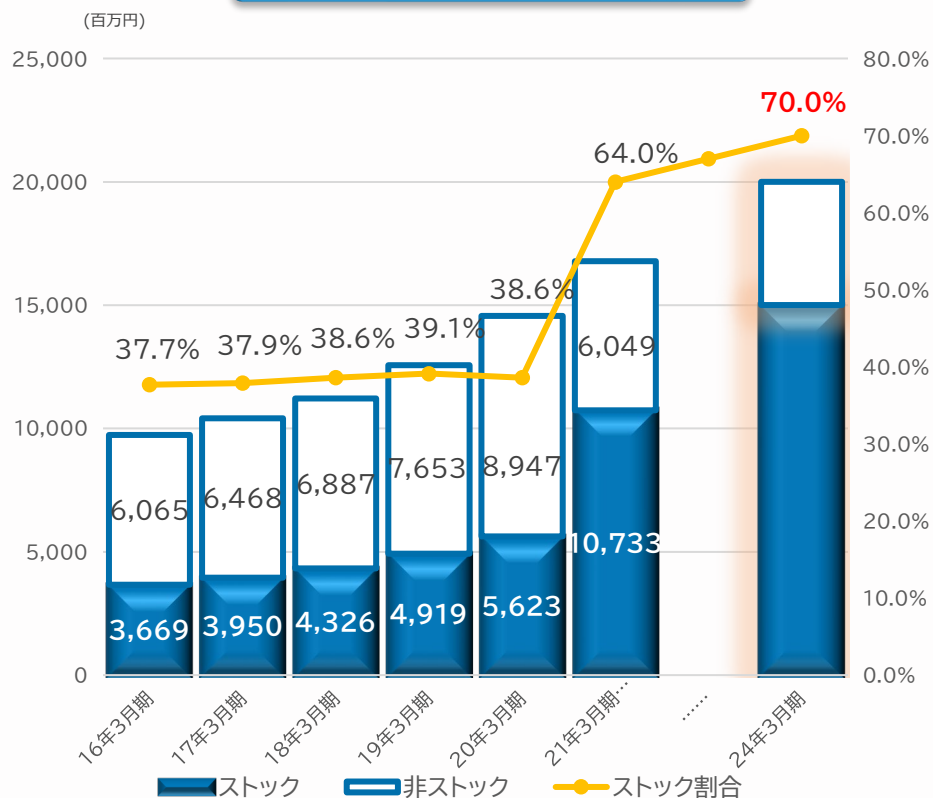
BEYOND THE NEW NORMAL 計画値 (アプリケーション・サービス事業)



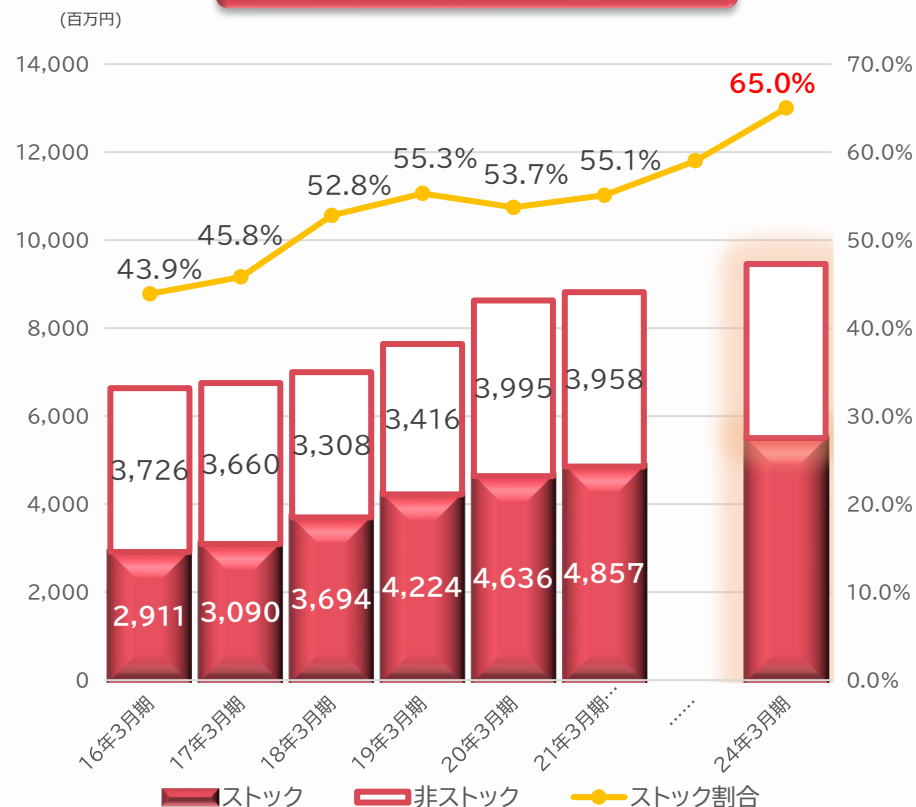
BEYOND THE NEW NORMAL KPI (ストック比率)

TMX単体+株式会社NOBORI

情報基盤事業

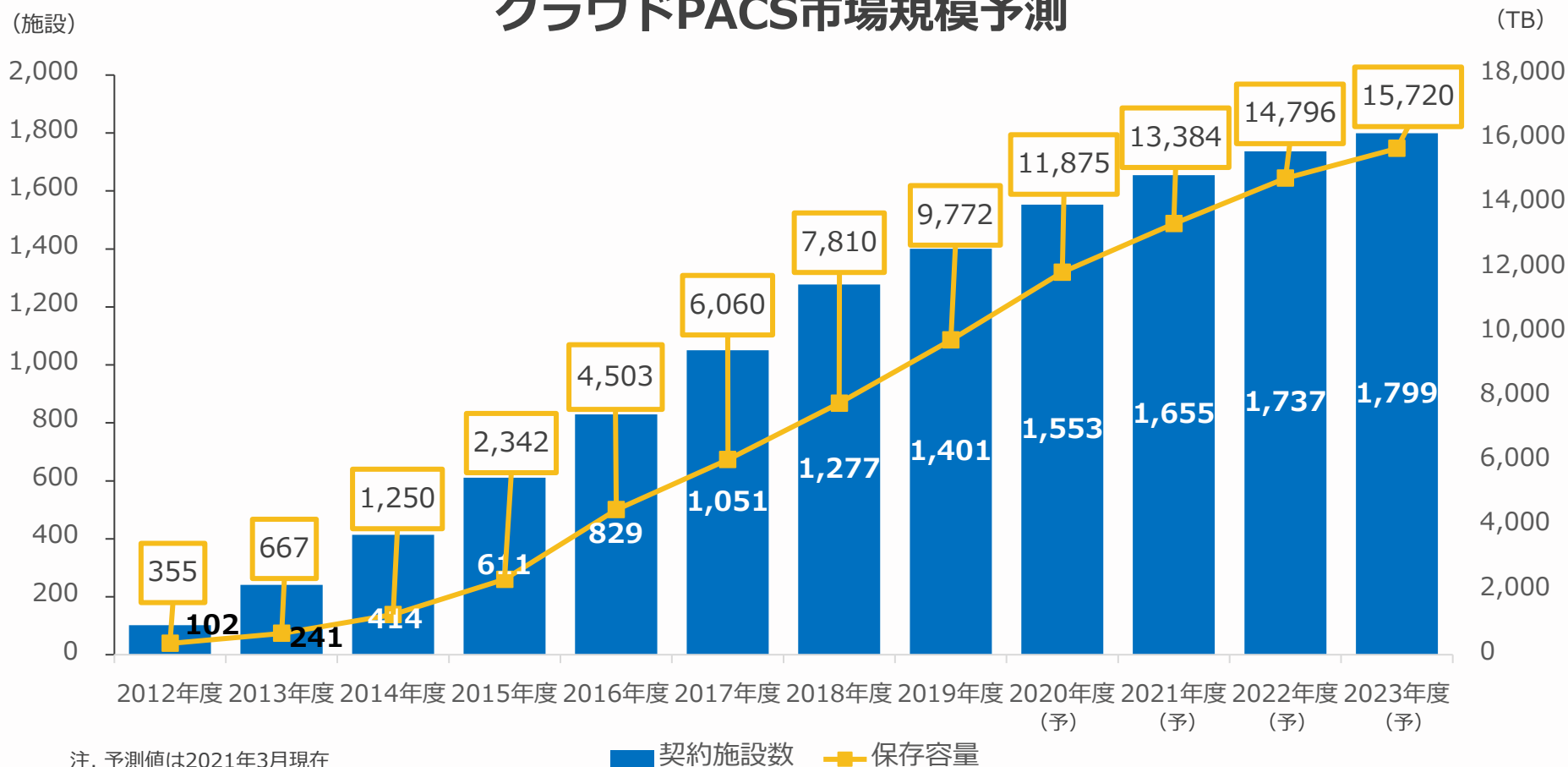


アプリケーション・サービス事業



(ご参考) 市場環境

クラウドPACS市場規模予測



◆ 2020年度でのクラウドの国内契約施設数（予測）は1,553施設。契約施設数は堅調に推移。

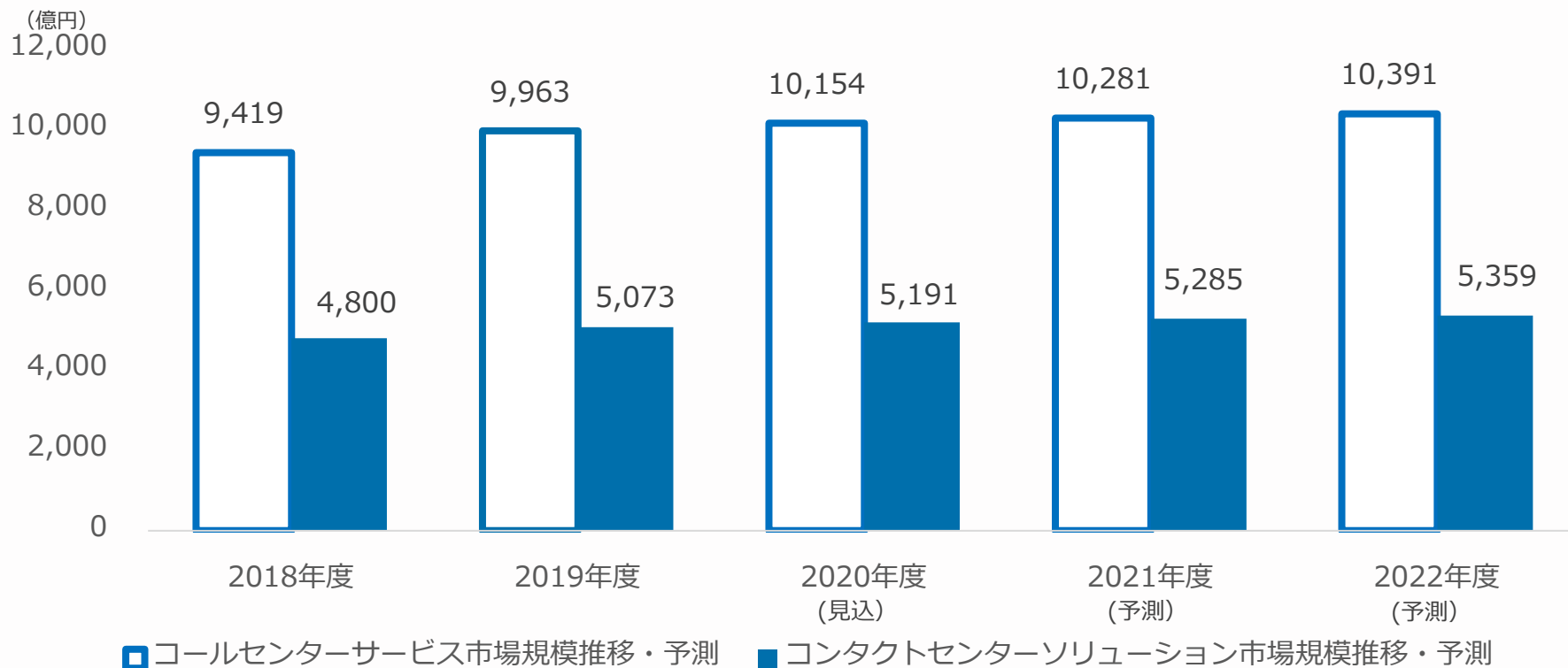
* 出所：株式会社矢野経済研究所「2020年版医用画像システム（PACS）・関連機器市場の展望と戦略」（2021年3月）

クラウドPACSの分類

外部保存型クラウドの分類	形態	特徴	構成イメージ	NOBORI
TYPE 1	短期/長期とも院内サーバ + 外部保存（全データを院内と外部データセンターに2重保存）	院外でのデータバックアップ機能の追加。既存システムに追加のコストが発生。		—
TYPE 2	短期は院内サーバ + 長期は外部保存	比較的使用頻度の高いデータを院内保存。既存システムに追加のコストが発生。		—
TYPE 3	院内サーバ設置なし + 外部保存型（院内はキャッシュのみなど）	導入コスト + 院内サーバ不要なため、低価格で。大規模施設に加え、小規模施設で急速に普及する可能性。		

◆テクマトリックスは、TYPE 3 に当たる医療情報クラウドサービス「NOBORI」を提供

コールセンターサービス市場/コンタクトセンターソリューション市場規模予測



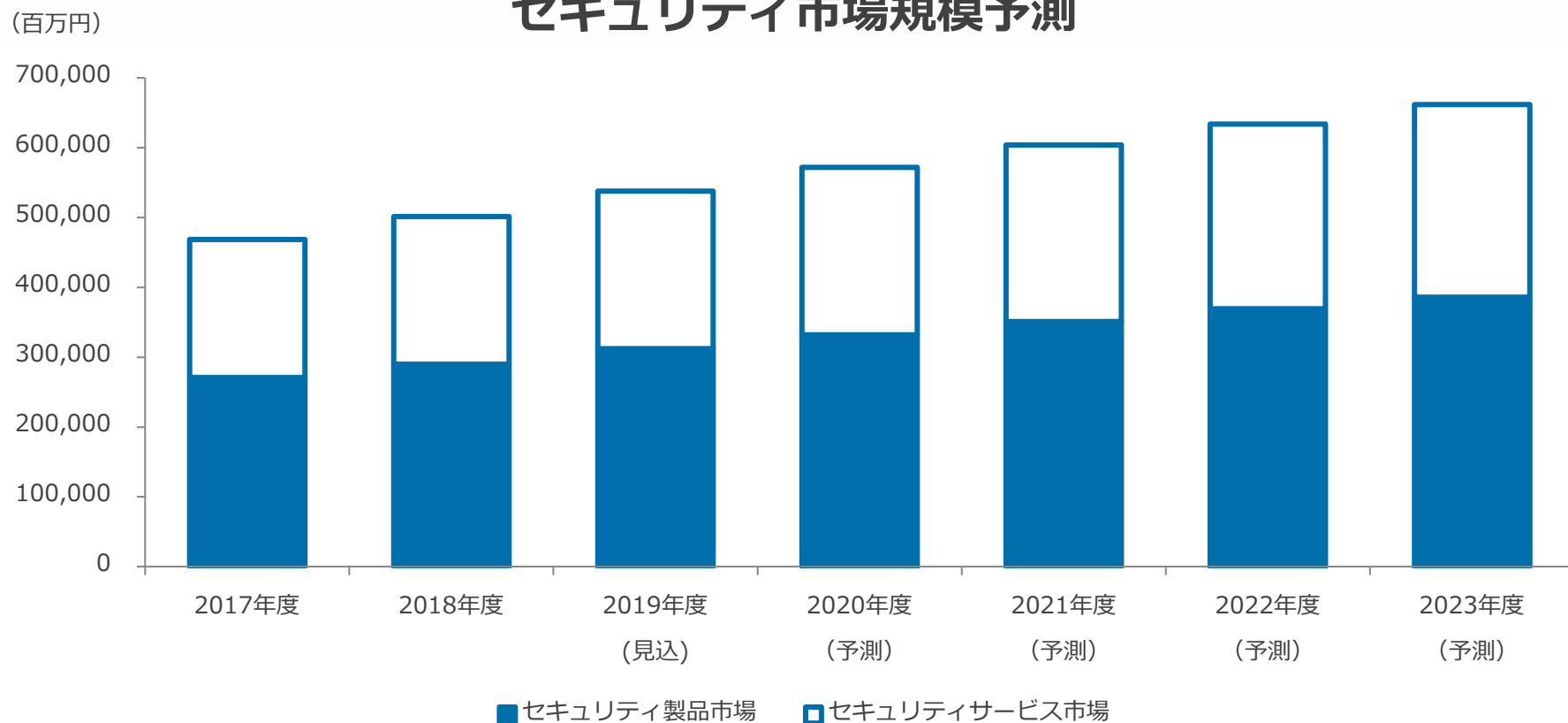
注：事業者売上ベース、予測値は2020年9月現在

◆2019年度のコールセンターサービス市場は前年度比5.8%増の9,963億円、コンタクトセンターソリューション市場は前年度比5.7%増の5,073億円

コールセンターサービスは労働力不足、コンタクトセンターソリューションはマルチチャネル化を背景に成長続く

* 出所：株式会社矢野経済研究所「コールセンターサービス市場/コンタクトセンターソリューション市場の調査（2020年）」

セキュリティ市場規模予測



◆国内のセキュリティサービス・製品市場は、2017年度の4,687億円から、2023年度は6,617億円に拡大の予測

◆平均成長率は5.7%の高い成長率を予測

* 出所：(株)富士キメラ総研「2019ネットワークセキュリティビジネス調査総覧（市場編）」



＜本資料の取り扱いについて＞

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあり得ます。

従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご了承ください。

＜お問合せ先＞

テクマトリックス株式会社 経営企画課 TEL:03-4405-7802 ir@techmatrix.co.jp